

## 6. 昆虫類

### (1) 調査概要

#### 1) 調査方法

- ① トンボ類は、R L2014 に記載された 12 科 31 種と新たに 7 種について、現地調査・文献調査を行った。
- ② バッタ目は、R L2014 に記載された 19 種を調査対象種とした。
- ③ カメムシ目は、セミ類 4 種、アメンボ類 2 種、カメムシ類 1 種について、現地調査・文献調査を行った。
- ④ 甲虫類（水生甲虫を除く）は、R L2014 に記載された 70 種及び新たに 7 種について、現地調査・文献調査を行った。
- ⑤ 水生甲虫は、R L2014 に記載された 67 種及び新たに 5 種について、現地調査・文献調査を行った。
- ⑥ 水生半翅目は、R L2014 に記載された 3 種及び新たに 4 種について、現地調査・文献調査を行った。
- ⑦ ハチ類は、R L2014 に記載された 3 種を調査対象種とした。
- ⑧ 蝶類は、R L2014 に記載された 4 科 40 種と新たに 3 種について、現地調査・文献調査を行った。
- ⑨ 蛾類は、R L2014 に記載された 13 種を調査対象とした。

#### 2) 産地情報の採用基準

現地調査の結果、および信頼度の高い文献情報を採用した。しかし、文献情報の場合には標本が残っているものと写真で記録されたものを採用基準とした。

#### 3) 調査結果の概要

県北地域では特に阿蘇地方は県内でも希少な昆虫類が多く生息している。特に二次草地は各牧野の方々に採草、野焼き、放牧で維持管理されている。しかし、最近では畜産形態も変わり、改良草地が増加し、多くの牧野では後継者不足で維持管理が困難になっている。そのために、希少種の生息に適した草原が減少し、草原性の昆虫相に急激な種の減少がみられた。また、観光や道路開発でも生息地は減少した。

森林性の昆虫が生息する九州中央山地でも、大型広域農道の建設による森林の伐採と残された森林でもシカの食害による下層植生の消失で林内の乾燥化が進行した。さらにブナ帯を中心とした落葉広葉樹林帯でも高木が枯死する現象が起きている。そのために生息地と個体数の減少は著しい。

里山では、農耕地、池沼、二次林の雑木林、集落内を流れる小河川等の管理が日常的に行われ、昆虫類にとっては多様性に富んだ生息環境であった。しかし、人々の生活も変化し、人口流失も増加した。その結果手入れのできなくなった里山には竹林が増加し、同時にシカやイノシシが里山に侵入し、良好な生息環境が消滅している。

水生昆虫では、生息域である河川、溪流、池沼、湿地に影響を及ぼす河川改修、林道工事、圃場整備、植生の遷移、農薬の使用、水質汚濁により、個体数の明らかな減少が起こっている。

#### 4) R L2014 との比較

R L2014 での昆虫類は、57 科 239 種（亜種を含む）が記載されている。RDB2019 で記載された種は、72 科 260 種（亜種を含む）である。そのうち新しく記載された種は以下のとおりである。

## \*トンボ類

タイリクアカネ(NT)、セスジイトトンボ(NT)、アジアイトトンボ(NT)、オグマサナエ(NT)、サラサヤンマ(AN)、マルタンヤンマ(AN)、トラフトンボ(AN)の7種。

## \*ゼミ類

アカエゾゼミ(DD)、エゾゼミ(DD)の2種。

## \*甲虫類(水生昆虫を除く)

ツヤマグソコガネ(CR)、イセテントウ(CR)、ヒコサンヒゲナガコバネカミキリ(CR)、ミヤマダイコクコガネ(VU)、クロモンマグソコガネ(VU)、オオトラカミキリ(VU)、サツマリngoカミキリ(DD)の7種。

## \*水生昆虫類

イトアメンボ(CR)、コバンムシ(CR)、ムモンチビコツブゲンゴロウ(CR)、ミズスマシ(CR)、ホンシュウセスジダルマガムシ(CR)、コガタガムシ(EN)、オキナワイトアメンボ(VU)、タテナミツブゲンゴロウ(VU)の8種。

## \*蝶類

クモガタヒョウモン(NT)、ヒメキマダラヒカゲ(NT)、ギンイチモンジセセリ(AN)の3種。

逆に、RL2014から外したのは、バッタ類のクチキウマ属の複数種(VU)、オガサワラクビキリギリス(DD)、ヒメツユムシ(DD)、クロヒバリモドキ(DD)、エゾスズ(DD)、キタヤチスズ(DD)の6種。

① トンボ類では、県内生息の13科92種のうち、絶滅危惧ⅠA類(CR)に8科13種、絶滅危惧ⅠB類(EN)に3科4種、絶滅危惧Ⅱ類(VU)に5科8種、準絶滅危惧(NT)に4科8種、情報不足(DD)に2科2種、要注目種(AN)に2科3種を選定した。

絶滅危惧ⅠA類(CR)に新しく追加したのはRL2014で絶滅危惧ⅠB類(EN)であったキイロヤマトンボ、ハッチョウトンボと情報不足(DD)であったオオルリボシヤンマである。キイロヤマトンボに関しては県内での記録が少なく、過去に記録されたところでも確認が困難である。ハッチョウトンボについては上天草市の白嶽湿地が保護区に指定された。また、県南地域の人吉市に多数生息していた箇所も遷移の進行が進み、極端に個体数が減少している。オオルリボシヤンマは県北地域の阿蘇市と南小国町で産卵行動も見られ、継続して確認されている。RL2014で絶滅危惧ⅠA類(CR)であったベッコウトンボはここ20年以上確認の記録がないので情報不足(DD)に変更した。

絶滅危惧ⅠB類(EN)に新しく追加したのは絶滅危惧Ⅱ類(VU)であったニホンカワトンボ、ムカシヤンマと準絶滅危惧(NT)であったオオイトトンボの3種である。ニホンカワトンボは阿蘇地方に多くの生息地が見られたが、九州北部大水害で生息地、個体数とも激減している。ムカシヤンマの生息地の明るい湿地等も遷移の進行と乾燥化で生息地が減少した。オオイトトンボは全国的に減少化が著しく、県内でも確認が厳しい状況である。絶滅危惧ⅠB類(EN)であった3種のうち上述の2種は絶滅危惧ⅠA類(CR)に、コフキヒメイトトンボは天草地域、県南地域で確認されているので現状維持とした。

絶滅危惧Ⅱ類(VU)に新しく追加したのは準絶滅危惧(NT)であったアオハダトンボ、ベニイトトンボ、ムカシトンボ、アオサナエ、フタスジサナエと要注目種(AN)であったキトンボの6種である。アオハダトンボの生息地はニホンカワトンボと同じ環境で、同様に減少している。ベニイトトンボは生息環境の悪化とリュウキュウベニイトトンボの侵入で個体数の減少が

続いている。ムカシトンボの生息地の県北地域は九州北部大水害で小河川が破壊され、修復工事で多くの生息地が消失したが、その後の発生も見られなくなっている。アオサナエもニホンカワトンボと同じ生息環境であるために影響を受けている。フタスジサナエは県内でも生息地が少なく、生息地も樹林内の池沼では多くの池沼で管理がなされず、池の遷移も進行し生息環境が悪化している。キトンボは平地の透明度の高い池沼で見られていたが、農薬、管理放棄で水質が悪化している。また岸辺の裸地もクズ等の植物が繁茂し生息環境も悪化している。絶滅危惧Ⅱ類(VU)に分類されていた4種のうち2種は絶滅危惧ⅠB類(EN)に、ウチワヤンマとキイロサナエは現状維持とした。

準絶滅危惧Ⅱ類(NT)に新しく追加したのは要注目種(AN)であったムスジイトトンボと無選定であったセスジイトトンボ、アジアイトトンボ、オグマサナエ、タイリクアカネの5種である。ムスジイトトンボの生息地は平地の浮葉植物や沈水植物が見られる広い池沼であるが、遷移の進行によってヒシ等の植物が繁茂して生息環境が悪化している。セスジイトトンボ、ムスジイトトンボと同様な環境に見られ、最近では生息地、個体数も減少している。アジアイトトンボも他のイトトンボと同様に急激に少なくなっている。オグマサナエの生息地は平地から丘陵地の抽水植物が見られる池沼で、周辺部に樹林地が必要である。池の管理がなされず、生息環境が悪化している。タイリクアカネは平地の開放的な池沼や、天草等の汽水域で見られていたが、特に最近では確認記録が減少している。準絶滅危惧(NT)であったヤクシマトゲイトトンボ、キイトトンボ、タバサナエの3種は現状維持とした。

情報不足(DD)に新しく追加したのは絶滅危惧ⅠA類(CR)のベッコウトンボである。20年以上確認記録がないので情報不足(DD)に変更した。R L2014 情報不足(DD)に選定されていたオオルリボシヤンマは、県内に土着が確認されたので絶滅危惧ⅠA類(CR)とした。ミナミヤンマは現状維持とした。

カテゴリー外の地域個体群(LP)とされていた八景水谷・江図湖の両湧水地に生息するナベブタムシは生息地に大きな変化がないために現状維持とした。

要注目種(AN)に新しく追加したのはサラサヤンマ、マルタンヤンマ、トラフトンボの3種である。サラサヤンマの生息地は樹林に囲まれた低湿地や放棄水田であるが、遷移が進行して多くの生息地が減少している。マルタンヤンマは樹林に囲まれた抽水植物の豊かな湿地、池沼や放棄水田であるが、遷移の進行と管理がなされずに生息環境が悪化している。なお、要注目種(AN)のキトンボは絶滅危惧Ⅱ類(VU)に、ムスジイトトンボは準絶滅危惧(NT)とした。

② バッタ類では、絶滅(EX)に1科1種、絶滅危惧Ⅱ類(VU)に1科1種、準絶滅危惧(NT)に4科4種、情報不足(DD)に5科7種を区分した。

バッタ目では十分な調査が行われていないのが実情である。そのために県内1ヶ所で確認された場合にはカテゴリーでは絶滅危惧種に選定される可能性が高い。詳細な調査を行えば他にも産地が発見できる可能性は充分考えられる。しかし、海岸の砂浜、河川敷、湿地などの特殊生息環境に生息する種では、1ヶ所の確認記録は重要な意味を持つ。また、選定に当たっては九州各県のRDBも参考にした。今回は生息環境が海岸性の種で、前回まで情報不足(DD)のカワラバッタを絶滅(EX)に、絶滅危惧ⅠA類(CR)のハマスズに関しては20年近く確認情報がないので情報不足(DD)に変更した。準絶滅危惧(NT)のナギサズ(ウミコオロギ)の生息環境は悪化しているので、絶滅危惧Ⅱ類(VU)にランクを上げた。絶滅危惧Ⅱ類(VU)であったコバネササキリ、ムサシセモンササキリモドキ、クロダケササキリモドキは情報不足(DD)に変更した。クチキウマ属の複数種は選定から外した。

準絶滅危惧(NT)についてはナギサズのランクを上げて、他の種は変更しなかった。

情報不足(DD)であったアシグロツユムシ、タンボオカメコオロギ、オオオカメコオロギは変更しなかったが、オガサワラクビキリギリス、ヒメツユムシ、クロヒバリモドキ、エゾスズ、キタヤチスズは選定から外した。

- ③ セミ類については、今回のRDB2019ではエゾハルゼミ以外に、エゾゼミ、アカエゾゼミ、チッチゼミを調査した。アカエゾゼミは南小国町の標高1000m近くのミズナラ・ブナ林で樹皮に止まっていたが捕獲できなかった。詳しい調査を行ってはいないが、エゾゼミは熊本県内の針葉樹林帯には生息していると思える。チッチゼミも可能性は低い、九州中央山地には生息地が考えられる
- ④ アメンボ類では、新規に絶滅危惧ⅠA類(CR)にイトアメンボ、絶滅危惧Ⅱ類(VU)にオキナワイトアメンボの2種を選定した。イトアメンボは全国的に減少化が著しく、オキナワイトアメンボは生息地が平地から丘陵地で、開発等の影響が大きい。
- ⑤ 甲虫類(水生甲虫を除く)では、絶滅危惧ⅠA類(CR)に6科8種、絶滅危惧ⅠB類(EN)に1科1種、絶滅危惧Ⅱ類(VU)に6科25種、準絶滅危惧(NT)に16科36種、情報不足(DD)に6科7種を選定した。

絶滅危惧ⅠA類(CR)ではRL2014の5種に、無選定であったツヤマグソコガネ、イセテントウ、ヒコサンヒゲナガコバネカミキリの3種を追加した。イセテントウとヒコサンヒゲナガコバネカミキリは、生息地が局地的であり、生息環境である山地帯の樹林が、伐採やシカの増加による乾燥化などの影響を受けているために追加した。ツヤマグソコガネは、ダイコクコガネに労働寄生をする生態を持つため、宿主と同様のカテゴリーとした。

絶滅危惧Ⅱ類(VU)では、RL2014の15種に無選定であったミヤマダイコクコガネ、クロモンマグソコガネ、オオトラカミキリの3種を追加した。ミヤマダイコクコガネとオオトラカミキリは生息地が局地的で、生息環境である山地帯の樹林が、伐採やシカの増加による乾燥化などの影響を受けているために追加した。クロモンマグソコガネは生息状況の詳細は不明であるが、全国的に激減しているため追加した。また、RL2014で準絶滅危惧(NT)としていたルリクワガタ、キュウシュウニセコルリクワガタ、ヒメオオクワガタ九州亜種の3種は、生息地である山地帯のブナ林が温暖化やシカの増加による乾燥化などにより、減少・消滅が懸念されることから絶滅危惧Ⅱ類(VU)にランクを上げた。さらに、コカブトムシ、クスベニカミキリは生息地である里山環境の荒廃により個体数が減少していることから、同様に絶滅危惧Ⅱ類(VU)にランクを上げた。情報不足(DD)とされていたモンクロベニカミキリ、アサカミキリについては生息地の減少及び脆弱性などの理由から、絶滅危惧Ⅱ類(VU)とした。また、ミカドテントウ、スネケブカヒロコバネカミキリ、ヨコヤマトラカミキリについては、生息地が局地的であること、オオテントウ、オオシロオビゾウムシについては広域に確認されているが確認例数が少ないことから、準絶滅危惧(NT)とした。

- ⑥ 水生甲虫類では、16科132種(ドウクツケンガムシを含む)のうち、絶滅(EX)に2科5種、絶滅危惧ⅠA類(CR)に10科37種、絶滅危惧ⅠA類(EN)に4科10種、絶滅危惧Ⅱ類(VU)に2科7種、準絶滅危惧(NT)に2科2種を区分した。絶滅危惧ⅠA類(CR)に区分されているドウクツケンガムシは、大瀬洞特産の陸生ガムシである。なお、オオマダラゲンゴロウ、スジゲンゴロウ、キボシツブゲンゴロウ、コクロマメゲンゴロウ、ツマキレオナガミズスマシの5種を絶滅(EX)とした。ほかにカテゴリーを変更したものは、以下の3科5種である。クロマメゲンゴロウ(EN→CR)、シマゲンゴロウ(VU→EN)、オオミズスマシ(VU→CR)、オナガミズスマシ(VU→CR)、ミユキシジミガムシ(VU→EN)。
- ⑦ 水生半翅目では、10科27種のうち、絶滅危惧ⅠA類(CR)に3科3種、絶滅危惧Ⅱ類(VU)

に2科2種、準絶滅危惧(NT)に1科1種を区分した。しかし、調査不足の種については、区分しなかった。

⑧ ハチ類に関しては、十分な調査ができなかったのでRL2014と同じカテゴリーにした。しかし、阿蘇で採集されシャンハイチビコハナバチとされた種は、未記載種の新種と考えられるので、コハナバチ属の1種とした。

⑨ 蝶類では、県内に生息している5科117種のうち絶滅(EX)に1科1種、絶滅危惧IA類(CR)に1科7種、絶滅危惧IB類(EN)に1科6種、絶滅危惧II類(VU)に4科14種、準絶滅危惧(NT)に3科12種、情報不足(DD)に1科1種、要注目種(AN)に2科2種を選定した。

蝶類に関しての環境の変化が著しいのは、里山と草原であるが、近年はシカの増加による下草の減少があり、山地でもそのための乾燥化が進んでいる。したがって山地に生息している種の減少も認められる。調査方法にも記しているが、RDB2009では要注目種(AN)として5種、RL2014では6種を挙げた。しかし、RDB2019ではRL2014の6種うちのアカシジミ、シータテハ、ウラギンスジヒョウモン、オオムラサキ、ウラナミジャノメを準絶滅危惧種(NT)とした。フジミドリシジミとアイノミドリシジミ、オオルリシジミ(九州亜種)は減少が著しいので、絶滅危惧IA類(CR)にしている。

⑩ 蛾類では、準絶滅危惧(NT)に5科8種、情報不足(DD)に4科5種にした。蛾類では十分な調査が行われていないのが実情である。準絶滅危惧(NT)のスキバホウジャクに関しては記録がないので情報不足(DD)に変更した。他の種はRL2014のカテゴリーと同じにした。

## 5) 今後の課題

継続観察・調査を必要とする種は以下のとおりである。

- ① トンボ類では、情報不足(DD)のミナミヤンマ、ベッコウトンボ、要注目種(AN)に選定したサラサヤンマ、マルタンヤンマ、トラフトンボ。
- ② バッタ類では情報不足(DD)のコバネササキリ、アシグロツユムシ、タンボオカメコオロギ、オオオカメコオロギ、ハマズ、ムサシセモンササキリモドキ、クロダケササキリモドキ。
- ③ セミ類では情報不足(DD)のアカエゾゼミ、エゾゼミ。
- ④ 甲虫類では情報不足(DD)のカワラハンミョウ、ルイスハンミョウ、アマミナカボソタマムシなど7種。また、水生の甲虫類では引き続き、生息状況調査を継続する必要がある。
- ⑤ ハチ類に関する全県的な調査は皆無なので、地道に調査を継続していく必要がある。
- ⑥ 蝶類についてはカテゴリーに含めていないクロシジミは草原に生息する種であり、野焼きの影響が想像されるので個体数・生息環境の調査を継続する必要がある。
- ⑦ 蛾類では、情報不足(DD)としたフジキオビ、クワトゲエダシャク、スキバホウジャク、クビグロケンモン、ヒゴキリガ。また近年環境変化が著しい草原、湿地、低地の樹林などに生息する種についても留意すべきと考えられる。

上記以外に今回の調査で主な対象とされなかった分類群で、カメムシ類、ハネカクシ類、オサムシ類、ハムシ類などについても今後の検討課題としなければならない。

## (2) 種の解説

絶滅(EX)から要注目種(AN)までの、それぞれのカテゴリーに位置づけた260種について、以下に解説する。

## 絶滅 (EX)

### カワラバツタ

*Eusphingonotus japonicus* (Saussure, 1888)

バッタ科

熊本県カテゴリー

絶滅 (EX)

環境省カテゴリー

選定理由 絶滅

生息環境 中規模以上の河川中流域の小石の河原

生息状況 50年以上前に五木村頭地での記録が残されている。確認されたのは幼虫で、現在、所在は不明である。五木村で記録された後には成虫・幼虫も確認されていない。

生存への  
脅威 不明

特記事項

### キボシツブゲンゴロウ

*Japanolaccophilus nipponensis* (Kamiya, 1938)

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー

絶滅 (EX)

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

選定理由 絶滅

生息環境 農業や家庭排水の影響のない河川の上流域等

生息状況 荒尾市と大牟田市の間の県境を流れる関川上流より 1939年に10頭が記録(神谷, 1939)されて以降、熊本県内のどの地域からも全く記録がない。九州他県では、対馬及び福岡県での記録があるのみである。

生存への  
脅威 不明

特記事項



標本所有者：松井英司

### コクロマメゲンゴロウ

*Platambus insolitus* (Sharp, 1884)

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー

絶滅 (EX)

環境省カテゴリー

選定理由 絶滅

生息環境 農業や家庭排水の影響のない河川の上流域等

生息状況 Sharp(1884)が、Higo産の1♂を用いて記載して以来、模式産地である熊本県からは、記録されていない。大分県や鹿児島県からは、1900年以降の記録がある。

生存への  
脅威 不明

特記事項 熊本県が模式産地。



標本所有者：松井英司

## オオマダラゲンゴロウ

*Sandracottus hunteri* (Crotch, 1872)

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅 (EX)  
環境省カテゴリー

選定理由 絶滅

生息環境 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

生息状況 Sharp(1884)が、Higo から記録して以来、全国どこからも記録のない種である。従来、情報不足としていたが、最初の記録から 50 年以上、そして直近 30 年以上にわたる綿密な調査でも確認されないことから今回絶滅として取り扱うこととした。

生存への  
脅威 不明

特記事項

## スジゲンゴロウ

*Hydaticus satoi* Wewalka, 1975

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅 (EX)  
環境省カテゴリー  
絶滅 (EX)

選定理由 絶滅

生息環境 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

生息状況 山口県や沖縄県での生息確認情報があったため、熊本県でもまだ生息の可能性がゼロではないのではないかと淡い期待を込めて、あえてCRとしていたが、その後も熊本県での生息の情報も得られていない。

生存への  
脅威 不明

特記事項 学名は、(Miller, K. B., J. Bergsten, & M. F. Whiting, 2009) による。



標本所有者：松井英司

## ツマキレオナガミズスマシ

*Orectochilus agilis* Sharp, 1884

ミズスマシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅 (EX)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 絶滅

生息環境 農薬や家庭排水の影響のない河川の上流域

生息状況 Sharp(1884)が、KUMAMOTO 産の 1♂を用いて記載して以降、模式産地である熊本県からは、記録されていない。福岡県では、1951 年に 2 頭が採集されているが、その後は確認されていない。最初の記録から 50 年以上、そして直近 30 年以上にわたる綿密な調査でも確認されないことから今回絶滅として取り扱うこととした。

生存への  
脅威 不明

特記事項 熊本県が模式産地



標本所有者：松井英司

## ルーミスジミ

*Panchala ganesa loomisi* (H.Pryer, 1886)

シジミチョウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅 (EX)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

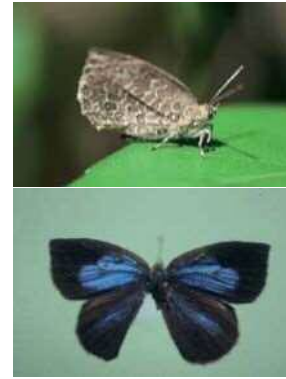
**選定理由** 絶滅

**生息環境** カシ類の大木が生育する自然度の高い広葉樹林

**生息状況** 県南地域（水上村市房山）で記録されたが、県内での記録は 1956～1958 年に採集された 6 頭のみで、その後は採集されていない。過去の記録地では伐採が行われている。

**生存への脅威** 不明

**特記事項** 広葉樹林の保護と再発見のための調査が必要である。



撮影：八尋勇

標本所有者：寺崎昭典

## 絶滅危惧ⅠA類 (CR)

### コバネアオイトトンボ

*Lestes japonicus* Selys, 1883

アオイトトンボ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類 (EN)

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少、その他 (希少)

**生息環境** 平地のガマ等の抽水植物が多く、水質がよい池で、周辺部に成熟前の成虫が生息する林などが必要

**生息状況** 現在、生息地は県北地域（山鹿市）の 1 ヶ所だけである。ホタル育成のために水路が改修され、湿地に水が流れなくなり、湿地が乾燥化し陸地化している。開放水面も減少し、休耕田がすべて陸地化し、駐車場も造成され環境的には危機的状況である。

**生存への脅威** 池沼の改修、湿地の乾燥化、自然遷移、管理放棄、農薬使用、捕獲・採集

撮影：田原朗敏

**特記事項** 現在確認できる個体数は 5～6 個体である。多様性条例（指定希少野生動植物）。



### グンバイトンボ

*Platycnemis foliacea sasakii* Asahina, 1949

モノサシトンボ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少、その他 (希少)

**生息環境** ツルヨシが生育する清流の中流域

**生息状況** 現在生息が確認されているのは県北地域（阿蘇地方）だけである。高森町の生息地は湧水の池であったが、管理がなされず、生息環境が消失した。阿蘇市（旧一の宮町）の池では水生植物の消失で、現在確認されていない。ハビタットがある中原川水系でも平成 24 年の大水害で、河川に土砂が堆積した。その後の河川改修の時に生息地のツルヨシの群落も重機によって剥ぎ取られ、生息環境が減少した。

**生存への脅威** 河川改修、水質汚濁、自然災害、自然遷移、土砂流入、農薬

撮影：寺崎昭典

**特記事項** 中原川水系の支流でも個体数が激減している。多様性条例（指定希少野生動植物）。





## モートンイトトンボ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

*Mortonagrion selenion* (Ris, 1916)

イトトンボ科

**選定理由** 県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 平地～山地の草丈の低い挺水植物が見られる湿地や休耕田

**生息状況** 生息が確認されているのは県北地域と県央地域である。県北地域（阿蘇市）の湿地でも生息地が確認された。しかし、植生の遷移の進行で部分的に開放水面が減少し、生息環境は悪化している。山都町には保護区があるが、人工的に造成された池である。両生類や水生昆虫の侵入で個体数は減少している。

**生存への脅威** 自然遷移、湿地の乾燥化、管理放棄

**特記事項** 保護区では定期的に管理維持に努める必要がある。多様性条例（指定希少野生動植物）。



撮影：田原朗敏

## アオヤンマ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

*Aeschnophlebia longistigma* Selys, 1883

ヤンマ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、分布境界、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 平地のヨシ、ガマ等の背丈の高い植物が多く生育する池や沼、周辺部には林が必要である

**生息状況** 確認の記録が残されているのは、県央地域である。しかし、最近では記録がほとんどなく、危機的な状況となっている。記録されていた池沼等は農業改善事業で改修され、公園整備等で生息地が消失した。また、池沼の管理放棄でも生息環境は消失している。

**生存への脅威** 池沼の改修、ヨシ原の減少、自然遷移、管理放棄、農地開発

**特記事項** 県内での記録がある江津湖や坪井川遊水池においては、管理に当たって十分な配慮が必要である。



撮影：松原茂

## ネアカヨシヤンマ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

*Aeschnophlebia anisoptera* Selys, 1883

ヤンマ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 平地のヨシ・マコモ等の生育する池沼・湿地、成熟前の成虫が生息する樹林が必要

**生息状況** 現在確認されている生息地は天草地域と県央地域である。生息地である池沼でも管理がなされず、植生の遷移が進行し、開放水面の消失、逆に過度の改修、公園整備で生息環境が消失している。種としては危機的な状況となっている。

**生存への脅威** 管理放棄、池沼の改修、自然遷移、ヨシ原の減少

**特記事項** 公園の管理に当たっては、ヨシ原等の保全に関して十分な配慮が必要である。



撮影：田原朗敏

## オオルリボシヤンマ

*Aeshna crenata* Hagen, 1856

ヤンマ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、その他（希少）

**生息環境** 平地～山地の周囲に樹木のある抽水植物・浮葉植物の生育する古い池

**生息状況** 現在確認されているのは県北地域である。過去には県南（球磨）地域でも確認記録がある。現在確認されているのは公園整備で造られた池である。ガマや浮葉植物が適度に生育し、いい環境の池になっている。しかし、今後適切な管理を行わないと生息環境が悪化する可能性がある。また、牧野内の池等でも成虫の確認記録がある。



**生存への脅威** 池沼の改修、管理放棄、農地開発、ヨシ原の減少、草地の開発

撮影：田原朗敏

**特記事項** 確認されている池は市の公園であるので、継続的に池の管理が必要である。

## ナゴヤサナエ

*Stylurus nagoyanus* (Asahina, 1951)

サナエトンボ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少、分布境界、その他（希少）

**生息環境** 平地の大きな河川の下流域で、水深が深く、河床が砂泥質で周囲に樹林が必要

**生息状況** 現在確認されているのは県央地域、県南地域で、本来成虫は確認が困難な種である。県央地域では最近白川での記録がある。緑川、加勢川では確かな記録はない。県南の球磨川では河川整備で中洲や河川敷での樹木の伐採が行われ、生息環境が減少している。種としては危機的な状況である。



**生存への脅威** 河川改修、水質汚濁、自然災害

撮影：松原茂

**特記事項** 河川改修時の河床、護岸工事への配慮が必要である。

## ホンサナエ

*Shaogomphus postocularis* (Selys, 1869)

サナエトンボ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、分布境界、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 平地や山地の砂泥底河川の中流域

**生息状況** 現在確認されているのは県央地域の緑川水系である。しかし、通年確認されていたが、ここ2年は未確認である。また、嘉島町では複数の記録があるが、最近では新しい記録はない。平成24年の大水害で、河床が大きな被害を受け、生息環境が悪化した。種としては危機的な状況である。



**生存への脅威** 自然災害、河川改修、水質汚濁、農薬使用

撮影：松原茂

**特記事項** 美里町が日本の南限である。環境アセスメント調査で県南地域での確認記録があるが、信憑性に疑問がある。

## エゾトンボ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー

*Somatochlora viridiaenea* (Uhler 1858)

エゾトンボ科

**選定理由** 県内局限、分布境界、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 山間地の周囲に樹木のある湿地・休耕田

**生息状況** 現在確認されているのは県南地域である。県北地域の南小国町では最近の記録はない。県南地域では相良村の休耕田で確認されている。しかし、植生の遷移の進行で開放水面が消失し、生息環境が減少し、危機的な状況となっている。人吉市の湿地では生息状況が不明である。

**生存への脅威** 自然遷移、管理放棄、湿地の乾燥化、自然災害

**特記事項** 人吉市が日本の南限である。生息地の保全が必要である。



撮影：松原茂

## ハネビロエゾトンボ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

*Somatochlora clavata* Oguma, 1913

エゾトンボ科

**選定理由** 県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 平地から山地の周辺に樹林のある湿地内の細流に生息

**生息状況** 県内全域に確認されていた。しかし、生息地である湿地等が植生の遷移、管理放棄、埋め立て等で生息環境が消失し、現在では県南地域の限られた湿地に記録があるだけである。種としては危機的な状況である。

**生存への脅威** 自然遷移、管理放棄、湿地の乾燥化、埋め立て

**特記事項** 生息地の保全が必要である。



撮影：西本晋也

## キイロヤマトンボ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

*Macromia daimoji* Okumura, 1949

ヤマトンボ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 平地から丘陵地の樹林のある砂底の河川中流域

**生息状況** 県央地域（緑川）、県南地域（球磨川）で少数確認されていた。しかし、水害等で生息地である砂底が消失、河川改修での河床の掘削等で生息域が急激に減少した。現在、菊池川と御船川で確認されている。

**生存への脅威** 河川改修、自然災害、水質汚濁

**特記事項** 河川改修時の河床、護岸工事に配慮が必要である。



上段撮影：濱砂淳人

下段撮影：筒井清利

## マイコアカネ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー

*Sympetrum kunckeli* (Selys, 1884)

トンボ科

**選定理由** 県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 海岸沿いの抽水植物の多い池沼、湿地、水田

**生息状況** 県南地域と天草地域で確認されていた。多数見られた牛深町の池は管理がなされず、池全体に植物が繁茂し、最後の記録が5年前である。有明町の湿地はクヌギが植栽され、最後の記録が3年前である。現在確認されているのは天草市の五和町（御領）、佐伊津町（金が丘）、下浦町（知ヶ崎）、大江のお万ヶ池公園周辺の池、水田、水路である。安定してみられるのは五和町の生息地で、佐伊津町、下浦町、大江では個体数は少ない。佐伊津町の生息地は横が水田で農薬が流入している。下浦町では区画整備が行われている。五和町でも区画整備の計画があり、生息環境が消失する可能性が高い。



撮影：松原茂

**生存への脅威** 管理放棄、池沼の埋め立て、自然遷移、その他（区画整備）、農薬使用

**特記事項** 県内での詳細な調査が必要である。

## ハッチョウトンボ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー

*Nannophya pygmaea* Rambur, 1842

トンボ科

**選定理由** 県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 丘陵地から山地の背丈の低い植物が生育する湿地や休耕田

**生息状況** 現在確認されているのは天草・県南地域である。天草地域（上天草市）の生息地は保護区に指定されている。しかし、湿地の管理がなされず、個体数は減少している。県南地域（人吉・球磨）では湿地・休耕田の管理がなされず、陸地化が進行し、絶滅の危機にある。



上段：雄♂

下段：雌♀



撮影：松崎恵

**生存への脅威** 自然遷移、管理放棄、捕獲・採集、湿地の乾燥化

**特記事項** 保護区でも採集者が見られる。パトロール等の必要性がある。多様性条例（指定希少野生動植物）。

## イトアメンボ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

*Hydrometra albolineata* (Scott, 1874)

イトアメンボ科

**選定理由** 県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬などの影響の少ない池沼、湿地

**生息状況** 本種は、全国的にも生息地が局限され、県内では、1ヶ所の生息地が確認されているのみで希少性が非常に高く、生息地の環境変化などにより絶滅が危惧される。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁



撮影：村田浩平

**特記事項**

## タガメ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

*Kirkaldyia deyrollei* (Vuillefroy, 1864)

コオイムシ科

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田や休耕田、廃田、湿地、ため池、小川の淀み等

**生息状況** 以前は、県内全域に生息していたが、近年は、阿蘇地方や県南地域（球磨地方）でしか生息が確認されていない。農薬等に対する感受性が極めて高く、農薬等の使用が主要な減少要因であり、絶滅寸前と思われる。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、農地開発、河川改修、捕獲・採集

**特記事項**



撮影：松井英司

## ヨドシロヘリハンミョウ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

*Callytron inspecularis* (W. Horn, 1904)

ハンミョウ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境、近年減少

**生息環境** 河口汽水域のヨシなどが生育する砂泥地

**生息状況** 県央地域の数ヶ所で生息が確認されているだけである。本種の生息地は河口域に局限されており、そのいずれにおいても個体数は少なく、生息基盤も脆弱であるために絶滅が危ぶまれる。

**生存への脅威** 河川改修、海辺の改変等、ヨシ原の減少

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## ツツラセメクラチビゴミムシ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類（EN）

*Rakantrechus lallum* S.Ueno, 1970

オサムシ科

**選定理由** 県特産、模式産地、特殊生息生育環境、地域的孤立・希少

**生息環境** 洞窟内の湿り気のあるグアノ層と呼ばれる土

**生息状況** 閉鎖性の高い特殊な生態系である九折瀬洞内に生息し、コウモリ類の糞を餌にしているトビムシ類、ヤスデ類等を捕食している。洞穴内という特殊性から、生息基盤は極めて脆弱である。

**生存への脅威** 洞窟内環境変化、自然災害

**特記事項** 九折瀬洞（球磨郡）が模式産地である。

## ダイコクコガネ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

*Copris ochus* Motschulsky, 1860

コガネムシ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少

**生息環境** 放牧地

**生息状況** 県央地域（山都町）、県北地域（阿蘇地方）で生息が確認されている。全国的に分布は広いが、各地で減少している種で、県内でも開発による生息環境の消失、牧畜形態の変化とともに個体数が激減している。

**生存への脅威** 農薬使用、草地の開発、管理放棄、捕獲・採集

**特記事項** 宮崎県、鹿児島県では近年、シカの糞での確認が増加しており、県内でも今後の動向が注目される。多様性条例（指定希少野生動植物）。



撮影：渡邊竜己

## ツヤマグソコガネ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー

*Aphodius impunctatus* Waterhouse, 1875

コガネムシ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境、近年減少

**生息環境** 放牧地

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）で生息が確認されている。本種は、ダイコクコガネの坑道内の貯蔵牛糞に潜入して産卵、幼虫はこれを食べて育つという労働寄生の生態をもつ。宿主のダイコクコガネが激減しているため、本種もそれに伴い減少している。

**生存への脅威** 草地の開発、管理放棄、その他（宿主のダイコクコガネの減少）

**特記事項** 九州特産種。



標本所有者：井手芳郎

## イセテントウ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー

*Chujochilus isensis* (H.Kamiya, 1966)

テントウムシ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、その他（希少）

**生息環境** 山地帯のイチイガシ大木が生育する樹林地

**生息状況** 県南地域の山地帯（球磨地方）のイチイガシで確認されているが、生息地は局地的である。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：堤内雄二

## キベリカタヒロハナカミキリ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー

*Pachyta erebia erebia* Bates, 1884

カミキリムシ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 山地帯のモミ、ツガなどの針葉樹が混生する自然林

**生息状況** 九州では1974年に九州中央山地（椎矢峠）で初めて発見されて以来、記録がなかった。しかし、近年、同山地周辺での生息が確認されている。もともと生息密度は低いものと思われるが、伐採とシカ食害による下層植生の消失による林内の乾燥化で生息環境が急激に減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、自然災害、その他（シカ食害による乾燥化）

**特記事項** 分布の中心である本州中部地方からは遠く離れた特異な分布をしている。



標本所有者：宮崎能

## ヒコサンヒゲナガゴバナカミキリ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー

*Glaphyra nitida adachii* (Takakuwa et Fujita, 1981)

カミキリムシ科

**選定理由** 県内局限、その他（希少）

**生息環境** 低山から山地帯のエゾエノキが生育する樹林地

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）でのみ生息が確認されている。生息状況の詳細は不明である。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林

**特記事項** ホソツヤヒゲナガゴバナカミキリの九州亜種。他県では、福岡県と大分県から局地的に記録されている。



標本所有者：宮崎能

## キンイロネクイハムシ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

*Donacia japana* Chujo et Goecke, 1956

ハムシ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境、その他（希少）

**生息環境** ミクリ属やスゲ属の植物が生育する池沼や水路

**生息状況** 県南地域（球磨地方）で生息が確認されているが、生息地は極めて局限される。生息環境の池沼の改修、河川改修などによる影響を受けやすく、危機的な生息状況である。生息地である池沼の管理がなされず、生息環境は悪化している。小河川でも改修されて食草の生育環境が減少している。

**生存への脅威** 河川改修、池沼の改修、水湿地の開発、水質汚濁

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## コバンムシ

*Ilyocoris cimicoides exclamationis* (Scott, 1874)

コバンムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類 (EN)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 過去に玉名市で2頭が確認されている。以前より希少な種であったが、近年はほとんど確認されなくなっている。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、水湿地の開発、農地開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## キイロコガシラミズムシ

*Halipus eximius* Clark, 1863

コガシラミズムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない休耕田、廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）、県央地域、天草地域の湿地やため池からほんの数個体ずつしか得られておらず、近年はほとんど確認されなくなっている。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、農地開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## チビコガシラミズムシ

*Halipus japonicus* Sharp, 1873

コガシラミズムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない休耕田、廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）、天草地域の湿地やため池からほんの数個体ずつしか得られておらず、1996年以降は確認されていない。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、農地開発

**特記事項** 中根(1987)により、エゾチビコガシラミズムシに *Halipus minutus* Takizawa, 1931 を、チビコガシラミズムシに *Halipus japonicus* Sharp, 1873 を採用した。



標本所有者：松井英司



## マダラコガシラミズムシ

*Halplus sharpi* Wehncke, 1880

コガシラミズムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田や休耕田、廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）から灯火採集により2個体が得られただけの極めて希少な種である（大塚, 1995）。九州では、宮崎県でも得られている。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、農地開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## ムツボシツヤコツブゲンゴロウ

*Canthyrus politus* (Sharp, 1873)

コツブゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**選定理由** 近年減少、特殊生息環境、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない休耕田、廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 天草地域の2ヶ所から記録されているが、近年は著しく減少しており、2017年に数個体が確認されたのみである。生息地の一つである天草市の廃田は、乾燥化が進んでおり、絶滅してしまう可能性が高い。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、農地開発、湿地の乾燥化

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## ムモンチビコツブゲンゴロウ

*Neohydrocoptus* sp.

コツブゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**選定理由** 県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 国内において、まず高知県から最初に報告された種である（松井, 1996）。その後、本州や九州（福岡県、宮崎県）からも報告されることとなった。熊本県では、2011年に初めて、県南地域（人吉・球磨）から確認された。個体数は多くない。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、水湿地の開発、農地開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## シマケシゲンゴロウ

*Coelambus chinensis* (Sharp, 1882)

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、特殊生息環境、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬の影響のない休耕田、廃田、湿地、ため池、塩性湿地等

**生息状況** 天草地域の 1 地域でのみ記録されているが、近年は、遷移が進みかなり乾燥化が進行してきており、水質も悪化し、確認されていない。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、農地開発、湿地の乾燥化

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## チビマルケシゲンゴロウ

*Hydrovatus pumilus* Sharp, 1882

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない休耕田、廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 天草地域の 2 ヶ所から得られただけの極めて希少な種である。個体数も少ない。体長が、1.6mm とたいへん小さく、見落としがちである。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、農地開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## マルケシゲンゴロウ

*Hydrovatus subtilis* Sharp, 1882

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない休耕田、廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 天草地域の 2 ヶ所から得られただけの極めて希少な種である。個体数も少ない。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、農地開発

**特記事項** チビマルケシゲンゴロウよりも一回り大きい。



標本所有者：松井英司

## キボシケシゲンゴロウ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)  
環境省カテゴリー  
情報不足 (DD)

*Allopachria flavomaculatus* (Kamiya, 1938)

ゲンゴロウ科

**選定理由** 近年減少、特殊生息環境、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない河川の上流域等

**生息状況** 県北地域、県南地域（人吉・球磨）、天草地域で記録されているが、水質悪化や生息環境の減少などにより、近年は 2011 年と 2017 年に各 1 頭が確認されている。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、河川改修

**特記事項**



所有者：松井英司

## ホソクロマメゲンゴロウ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)  
環境省カテゴリー

*Platambus optatus* (Sharp, 1884)

ゲンゴロウ科

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない河川の上流域等

**生息状況** 小国町および菊池溪谷において、2 頭が確認されているのみの極めて希少な溪流性のゲンゴロウである。溪流の岸辺の石下や溜まり水の落ち葉の下に生息している。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、河川改修

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## カムリセスジゲンゴロウ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)  
環境省カテゴリー

*Copelatus kammuriensis* Tamu et Tsukamoto, 1955

ゲンゴロウ科

**選定理由** 近年減少、特殊生息環境、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない休耕田、廃田、湿地等

**生息状況** 県北地域、県央地域、県南地域（人吉地方）で生息が確認されている。個体数は、多くはない。一時的な水たまりや少しの日照りで乾燥してしまいそうな不安定な湿地を好む。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、農地開発、池沼の改修

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## ヒコサンセスジゲンゴロウ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー

*Copelatus takakurai* M.Satô, 1985

ゲンゴロウ科

**選定理由** 近年減少、特殊生息環境、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない休耕田、廃田、湿地等

**生息状況** 県北地域、県南地域（球磨地方）で生息が確認されている。個体数は、非常に少ない。一時的な水たまりや少しの日照りで乾燥してしまいそうな不安定な湿地を好む。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、農地開発、水湿地の開発、池沼の改修

**特記事項**



撮影：松井英司

## チンメルマンセスジゲンゴロウ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー

*Copelatus zimmermanni* Gschwendtner, 1934

ゲンゴロウ科

**選定理由** 近年減少、特殊生息環境、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない休耕田、廃田、湿地等

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）、天草地域で生息が確認されている。南関町の生息地は、大型ショッピングモールの建設の折りに消滅した。個体数は、多くはない。一時的な水たまりや少しの日照りで乾燥してしまいそうな不安定な湿地を好む。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、農地開発、水湿地の開発、池沼の改修

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## キベリマメゲンゴロウ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

*Platambus fimbriatus* (Sharp, 1884)

ゲンゴロウ科

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない河川の中流域

**生息状況** 荒尾市と菊池市、熊本市からの記録があるが、近年は確認されていない。荒尾市と大牟田市の間の県境を流れる関川では多産していたが、近年全く確認できなくなった。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、河川改修

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## マルコガタノゲンゴロウ

*Cybister lewisianus* Sharp, 1873

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のないため池

**生息状況** 天草地域の1地域でのみ、かろうじて生息が確認されている。以前は6~7ヶ所の池から確認されていたが、現在は1ヶ所のみとなっており、絶滅寸前である。2013年から2017年までは全く確認できず、絶滅してしまったのではないかと心配されたが、2018年の春に、1ヶ所の池で生息が確認された。しかしながら、いつ絶滅してもおかしくない厳しい状況であることには変わりはない。生息地の保全と共に、本種の域外保全の方策が取り組まれ始めた(2019年)。



撮影：松井英司

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、農地開発、水湿地の開発

**特記事項** コガタノゲンゴロウに似るが、腹部が黄褐色となり、体型もより丸みを帯びる点で区別できる。九州最後の個体群である可能性がある。種の保存法(希少野生動物種)。

## マルガタゲンゴロウ

*Graphoderus adamsii* (Clark, 1864)

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 阿蘇地方及び県央地域(1ヶ所)で生息が確認されている中型のゲンゴロウである。九州の他県での生息地は、現在宮崎県の1ヶ所のみであり、極めて希少な種である。



撮影：松井英司

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、農地開発、水湿地の開発

**特記事項**

## ナガマルチビゲンゴロウ

*Leiodytes kyushuensis* (Nakane, 1990)

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田、廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 天草地域の2ヶ所でのみ確認されているのみであり、絶滅してしまう可能性が極めて高い。県外では、鹿児島県、宮崎県、岡山県で生息が確認されている。



標本所有者：松井英司

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、農地開発、水湿地の開発、池沼の改修

**特記事項**

## クロマメゲンゴロウ

*Platambus stygius* (Régimbart, 1899)

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない河川の上流域等

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）、県南地域（人吉地方）で生息が確認されている渓流性のゲンゴロウである。個体数は多くはない。河川の上流域の岸辺の石下や落ち葉の下に生息する。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、河川改修

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## オオゲンゴロウ

*Cybister chinensis* Motschlsky, 1854

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田、廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 現在は、県北地域（阿蘇地方）、県央地域のみで生息が確認されている。天草地域では、1989年に1頭が報告（松井, 1989a）されたが、その後は全く確認されていない。過去には、熊本市の記録もある。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、農地開発、水湿地の開発

**特記事項** 一般に、ゲンゴロウの和名が使われていたが、近年は科名との混同を避けるためオオゲンゴロウを用いることも多くなった。学名が *C. japonicus* から *C. chinensis* に変更された。



撮影：松井英司

## オオミズスマシ

*Dineutus orientalis* (Modeer, 1776)

ミズスマシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 県央地域、天草地域でのみ確認されている種である。近年は生息環境の減少や水質悪化により急激な減少傾向にある。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、水湿地の開発、農地開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## コオナガミズスマシ

*Orectochilus punctipennis* Sharp, 1884

ミズスマシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない河川の上流域

**生息状況** 県北地域、県南地域（球磨地方）の数ヶ所でのみ生息が確認されている。溪流性のミズスマシであり、個体数も少なく、近年は確認されていない。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、水湿地の開発、河川改修

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## オナガミズスマシ

*Orectochilus regimbarti regimbarti* Sharp, 1884

ミズスマシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない小川

**生息状況** 県内全域の小川の溪流で、生息が確認されている種である。河川改修や水質悪化などにより、近年は天草地域及び県北地域で確認されている。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、河川改修

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## コミズスマシ

*Gyrinus curtus* Motschulsky, 1866

ミズスマシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類 (EN)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のないため池等

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）の1地域でのみ生息が確認されている。天草での記録もあるが、ヒメミズスマシの誤同定の可能性もある。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、河川改修、水湿地の開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## ヒメミススマシ

*Gyrinus gestroi* Régimbart, 1883

ミススマシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類 (EN)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない山地のため池等

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）、天草地域の3ヶ所でのみ記録がある。生息地の消滅や水質汚染等により、激減しており、近年は全く確認されていない。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、河川改修、水湿地の開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## ミススマシ

*Gyrinus japonicus* Sharp, 1873

ミススマシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 以前は、県下全域のため池等に普通に生息していた種である。天草地域では、ため池の水面を覆い尽くすほどの個体が見られる状況を目にすることがあったが、近年はそういう状況に出くわすことはなくなった。近年急速に個体数を減らしている。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、水湿地の開発、農地開発

**特記事項**



撮影：松井英司

## ハセガワダルマガムシ

*Ochthebius hasegawai* Nakane et Matsui, 1986

ダルマガムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない河川の上流域等

**生息状況** 県北地域の2地点及び県央地域の1地点からのみ生息が確認されている。渓流域の石の上から得られるが、個体数も少なく急激に減少している。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、河川改修

**特記事項**



標本所有者：松井英司



## ホンシュウセスジダルマガムシ

*Ochthebius japonicus* Jäch, 1998

ダルマガムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 清冽な河川中の石の上

**生息状況** 本種は、岐阜県、栃木県、三重県、愛媛県、高知県、福岡県からのみ記録されていた。県内では、熊本市の清流において確認された種である。非常に希少性が高く、いつ絶滅してもおかしくない環境に生息している。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、河川改修

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## ナカネダルマガムシ

*Ochthebius nakanei* Matsui, 1986

ダルマガムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、模式産地、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない河川の上流域

**生息状況** Matsui (1986)により、菊池渓谷産の 1♂を用いて記載された種である。模式産地である菊池渓谷からは、その後の追加記録はない。近年、県北地域（阿蘇地方）で生息が確認された。溪流の石下や飛沫の当たる石上に生息する。福岡県では、5頭が記録されている。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、河川改修

**特記事項** 菊池渓谷が模式産地。



標本所有者：松井英司

## ヤマトホソガムシ

*Hydrochus japonicus* Sharp, 1873

ホソガムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない河川の上流域や山地のため池

**生息状況** 県北地域と天草地域でのみ確認されている極めて稀な種である。近年は、確認されていない。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、農地開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## ドウクツケシガムシ

*Cercyon uenoi* M.Satô, 1984

ガムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、模式産地、特殊生息環境、県特産、県内局限

**生息環境** 洞窟内の湿り気のあるグアノの中

**生息状況** 球磨村の大瀬洞特産の種であるが、近年急激に個体数を減らしており、全く確認できない年もあった。2017年の調査では、複数の個体の生息を確認することができたが、洞窟内の微環境のちょっとした変化により、一気に絶滅してしまう可能性がある。

**生存への脅威** 洞窟内環境変化、捕獲・採集

**特記事項** 大瀬洞が模式産地。



標本所有者：松井英司

## ウスイロツヤヒラタガムシ

*Agraphydrus ishiharai* (Matsui, 1994)

ガムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、模式産地、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない小川

**生息状況** Matsui (1994)により、県南地域（球磨地方）2地点の小川の岸辺の砂の中から記載された種である。模式産地の一つの免田川では、1996年には、環境が激変し、全く確認できなくなった。なお、御船町からも確認されている。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、河川改修

**特記事項** 免田川が模式産地。



標本所有者：松井英司

## アリアケキイロヒラタガムシ

*Enochrus yukinoae* Matsui, 1994

ガムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、模式産地、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない休耕田や廃田、湿地等

**生息状況** Matsui (1994)により、天草市の湿地から記載された種である。2001年以降、模式産地の天草市でも確認されていなかったが、2015年に1頭のみが確認された。四国からも1頭得られている。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、水湿地の開発、河川改修

**特記事項** 学名は、Matsui (1994)により *Enochrus yukinoae* を用いた。天草市が模式産地。



標本所有者：松井英司

## キベリケシヒラタガムシ

*Crenitis nakanei* Hebauer, 1994

ガムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない河川の上流域等

**生息状況** 五家荘の小川でのみ確認されており、近年は確認されていない。河川改修や水質汚濁により絶滅してしまう可能性がある。個体数も少ない。

**生存への脅威** 農薬使用、河川改修

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## トカラクロケシヒラタガムシ

*Crenitis tokarana* Nakane, 1966

ガムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、分布境界、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない小川

**生息状況** 天草地域にある無人島の細流から、松井(1989b)により記録されたが、その後の調査では生息地の細流の水が枯れてしまっており、絶滅してしまった可能性もある。

**生存への脅威** その他（細流の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## ニセコクロヒラタガムシ

*Chasmogenus orbis* (Watanabe, 1987)

ガムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない休耕田や廃田、湿地等

**生息状況** 天草地域の1地域でのみ記録されているが、1996年を最後に、生息地の乾燥化により、全く確認されていない。絶滅した可能性もある。本種は稀な種として青森県や関東地方から知られていたが、近年になって北海道南部（岡田, 2015）、滋賀県（北野・苅部, 2012）、兵庫県（森, 2017）、三重県（渡部ほか, 2017）から相次いで記録されている。また、九州では、鹿児島県から4頭が記録されている（中島・松井, 2018）

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、湿地の乾燥化、水湿地の開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## シジミガムシ

*Laccobius bedeli* Sharp, 1884

ガムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類 (EN)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない休耕田や廃田、湿地等

**生息状況** 1993年に球磨郡の1地点から記録されている。それ以降の記録は、皆無である。九州では、鹿児島県からの記録がある (Gentili, 1979)。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、農地開発、水湿地の開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## チビマルガムシ

*Paracymus orientalis* Orchymont, 1925

ガムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 全国局、県内局限、近年減少、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない休耕田や廃田、湿地等

**生息状況** 天草地域の2地点でのみ記録されている。九州では、他に3ヶ所で生息が確認されているが、個体数は極めて少ない。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、農地開発、水湿地の開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## フジミドリシジミ

*Sibatanozephyrus fujisanus* (Matsumura, 1910)

シジミチョウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、その他 (希少)

**生息環境** 標高700m以上の山地のブナ林

**生息状況** 県北地域、九州中央山地、県南地域に分布している。もともと個体数が少ない上に、林道建設によるブナ林の伐採とシカの食害による乾燥の影響を強く受け激減している。

**生存への脅威** 道路工事、森林伐採、自然災害、その他 (シカ食害による乾燥)

**特記事項** 道路工事の縮小、シカネットなどによる食害防止策が必要である。



上段：雄♂



下段：雌♀

標本所有者：溝部忠志

## ウラジロミドリシジミ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー

*Favonius saphirinus* (Staudinger,1887)

シジミチョウ科

**選定理由** 県内局限、分布境界、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 里山にある高原のナラガシワ・カシワ林

**生息状況** 県北地域、県央地域に分布している。局所的でいずれの生息地も狭く、個体数は極めて少ない。道路建設・シイタケ栽培のために食樹が伐採されている。シイタケ栽培のために伐採された場合、クヌギが植栽されることが多く、本種のナラガシワ・カシワへの依存の強さを考えると危機的状況になっている。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、道路工事、観光開発

**特記事項** 分布の南限にあたる上益城郡山都町(矢部町)の生息地は非常に脆弱で、近年の記録はなく、保護策が必要である。多様性条例（指定希少野生動物）。



撮影：田原朗敏

## ミドリシジミ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー

*Neozephyrus japonicus* (Murray,1875)

シジミチョウ科

**選定理由** 県内局限、分布境界、近年減少、その他（希少）

**生息環境** ケヤマハンノキ林

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）に局所的に分布している。いずれの分布地も狭隘で連続したものではなく、孤立している。キャンプ場・山路建設のための伐採により食樹が減少し、個体数は極めて少ない。また野焼きも影響を与えている。個体数の変化には注意が必要である。

**生存への脅威** 森林伐採、道路工事、自然遷移

**特記事項** ケヤマハンノキ林の保護と生息状況の調査が必要である。分布の南限は阿蘇郡高森町。多様性条例（指定希少野生動物）。



上段：雄♂  
下段：雌♀

撮影：田原朗敏

## アイノミドリシジミ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）  
環境省カテゴリー

*Chrysozephyrus brilliantinus* (Staudinger,1887)

シジミチョウ科

**選定理由** 近年減少、その他（希少）

**生息環境** 標高 700m以上のミズナラなどのブナ科が生育する広葉樹林

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）と九州中央山地に分布する。分布範囲は広いが、本来個体数が少ない種で、特に大型林道建設のための伐採とシカの食害による乾燥の影響を強く受けて、激減している。県北地域・九州中央山地ともに減少が著しい。

**生存への脅威** 森林伐採、道路工事、人工造林、その他（シカ食害による乾燥化）

**特記事項** シカの食害の状況調査、道路工事の縮小が必要である。



上段：雄♂  
下段：雌♀

標本所有者：溝部忠志

## ゴイシツバメシジミ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

*Shijimia moorei* (Leech, 1889)

シジミチョウ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、特殊生息環境、近年減少、地域的孤立、その他 (希少)

**生息環境** シシンランが着生する標高 300~1000mのカシ類などの大木が多く見られる原生林で、湿度が高く日光があまりさしこまない林内

**生息状況** 県南地域 (市房山、白髪岳)、九州中央山地 (内大臣) に分布しているが、個体数は極めて少ない。乾燥などの環境の変化に敏感で、伐採、自然災害での食草の減少、シカの食害による乾燥が生息へ大きく影響している。採集圧もみられる。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、捕獲・採集、道路工事、自然災害、その他 (シカ食害による乾燥化)

**特記事項** 永年にわたる生息地の保護が必要である。種の保存法 (希少野生動植物種)、文化財保護法 (天然記念物)。



撮影：田原朗敏

## クロツバメシジミ (西日本亜種)

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

*Tongeia fischeri shojii* Satonaka, 2003

シジミチョウ科

**選定理由** 県内局限、近年減少、地域的孤立・希少

**生息環境** 日当たりのよい田や道路の石垣、露岩地、人家の塀や屋根にあるツメレンゲなどのベンケイソウ科の生育地

**生息状況** 県内の生息地は県北地域の 1 ヶ所だけで個体数はわずかである。また生息地が人家の塀や道路の石垣で食草が採取されて、本種の個体数が少なくなり、危機的状況である。1957 年に人吉市で 1 ♀ が採集されているが詳細は不明で、その後は発見されていない。

**生存への脅威** 観光開発、捕獲・採集、農薬使用、その他 (人家改変)

**特記事項** 食草ツメレンゲの補植が必要である。



撮影：八尋勇

## オオルリシジミ (九州亜種)

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

*Shijimiaeoides divinus asonis* (Matsumura, 1929)

シジミチョウ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、分布境界、模式産地、地域的孤立・希少

**生息環境** 阿蘇地方の野焼き・採草・放牧で管理されたクララの生育する明るい短草型草原

**生息状況** 県北地域、県央地域に分布している。阿蘇山内輪には以前は個体数が多かったが非常に減少した。牧畜産業の衰退、人工飼料の発達による草原の放置、観光地化により生息地が減少している。阿蘇の噴火や台風、採集圧での減少にも注意を要する。放牧、野焼きを取り入れた生息地の植生遷移の抑制が必要である。

**生存への脅威** 観光開発、自然遷移、野焼きの減少、農地開発、管理放棄、道路工事、捕獲・採集、自然災害、火山活動

**特記事項** 模式産地は阿蘇山。分布の南限は上益城郡山都町 (旧蘇陽町)。多様性条例 (指定希少野生動植物)。



撮影：八尋勇

## 絶滅危惧 I B 類 (EN)

### ニホンカワトンボ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)  
環境省カテゴリー

*Mnais costalis* Selys, 1869

カワトンボ科

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から丘陵地のツルヨシ等の抽水植物や沈水植物が見られる砂底の清流の中流域

**生息状況** 県内全域（天草地域を除く）で確認されていた。現在は主に県北地域の阿蘇地方、菊池市、山鹿市、県央地域の山都町、美里町、御船町、甲佐町、県南地域では人吉・球磨地域に見られるが、個体数は激減している。阿蘇地方では露天風呂から排水された温泉水で生息環境が悪化している。平成 24 年の大水害で土砂が流入し、砂底の河床が消失した。また、河川改修等でヨシ原が消失した。



撮影：寺崎昭典

**生存への脅威** 河川改修、自然遷移、水質汚濁、自然災害、ヨシ原の減少

**特記事項** 河川工事による濁水防止とツルヨシの管理が必要である。別名 オオカワトンボ。

### コフキヒメイトトンボ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)  
環境省カテゴリー

*Agriocnemis femina orvzae* Lieftinck, 1962

イトトンボ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 平地の草丈の低い植物が繁茂した池沼・休耕田・湿地・水路

**生息状況** 県内全域（阿蘇地方を除く）で確認記録が残されていたが、現在天草地域（上天草市・天草市）が主たる生息地である。県央地域では熊本市や宇城市などでも確認されていたが現在未確認である。休耕田も植生が進行し、湿地は埋め立てや管理がなされず急速に生息環境が消滅した。



撮影：田原朗敏

**生存への脅威** 自然遷移、管理放棄、湿地の陸地化、埋め立て、農薬の使用

**特記事項** 水田脇の水路や湿地の保全が必要である。

### オオイトトンボ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)  
環境省カテゴリー

*Paracercion sieboldii* (Selys, 1876)

イトトンボ科

**選定理由** 県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 平地から丘陵地の抽水植物や沈水植物、浮葉植物が多い池沼・湖

**生息状況** 県内全域で確認されていたが、現在県南地域、県央地域での少数の記録があるだけである。池沼の管理がなされず、遷移が進行したために開放水面がなくなり、生息環境が悪化した。現在では危機的な状況となっている。



撮影：松原茂

**生存への脅威** 自然遷移、農薬使用、管理放棄、水質汚濁

**特記事項** 九州ではここ 10 年で生息が確認されない生息地が急激に増加した。

## ムカシヤンマ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類（EN）  
環境省カテゴリー

*Tanypteryx pryeri* (Selys, 1889)

ムカシヤンマ科

**選定理由** 県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 低山地から山地の周囲に樹林があり、ミズゴケ等の見られる湿地、水が滴るコケ類に覆われた斜面

**生息状況** 以前は県内全域（天草地域を除く）で確認されていた。生息地は限定される。幼虫はヤクシマトゲオトンボと似た環境で、より明るい環境に生息している。現在、湿地は遷移が進行して陸地化し、道路斜面等は林道工事、河川改修等で生息地は急激に減少した。

**生存への脅威** 湿地の乾燥化、河川改修、道路工事、森林伐採

**特記事項** 湿地と林道斜面の水場の保全。



撮影：松原茂

## シロヘリハンミョウ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類（EN）  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

*Callytron yuasai yuasai* (Nakane, 1955)

ハンミョウ科

**選定理由** 県内局限、特殊生息生育環境、近年減少

**生息環境** 海岸の砂地が偏在する岩礁地帯

**生息状況** 県央地域と天草地域の海岸地帯で生息が確認されているが、局地的である。本種の生息環境は特殊で規模も小さいことが多く、各地で護岸工事が行われ、生息地が消失している。

**生存への脅威** 海辺の改変等、埋め立て

**特記事項**



標本所有者：井手芳郎

## オオマルケシゲンゴロウ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類（EN）  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

*Hydrovatus bonvouloiri* Sharp, 1882

ゲンゴロウ科

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田や休耕田、廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 県北地域、天草地域で記録されているが、水質悪化や生息環境の減少などにより、近年は減少している。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、農地開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司



## サワダメゲンゴロウ

*Platambus sawadai* (Kamiya, 1932)

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、県内局限、

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない河川の上流域

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）、県南地域（球磨地方）の河川上流部から記録されている渓流性のゲンゴロウである。岸辺の石下や落ち葉の下から得られるが、個体数は多くはない。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、河川改修

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## アヤナミツブゲンゴロウ(シャープツブゲンゴロウ)

*Laccophilus sharpi* Régimbart, 1889

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 本種は、県内全域に極めて普通に生息していた種であり、熊本県 RDB 2009 においては、カテゴリー外であった。しかし、近年急激に生息数を減少させている。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、水湿地の開発、農地開発

**特記事項** シャープツブゲンゴロウの和名が使われることが多かったが、以前より使われており、より種の形質を的確に表しているアヤナミツブゲンゴロウを使用する。



標本所有者：松井英司

## シマゲンゴロウ

*Hydaticus bowringi* Clark, 1864

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）を中心に生息が確認されている種である。県央地域、県南地域でも確認されているが、個体数は少ない。近年は生息環境の減少や悪化により急激な減少傾向にある。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、水湿地の開発、農地開発

**特記事項** 学名は、(Miller, K. B., J. Bergsten, & M. F. Whiting, 2009) による。



撮影：松井英司

## クロゲンゴロウ

*Cybister brevis* Aube, 1838

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類 (EN)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 近年減少、県内局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田、廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）、県南地域（人吉・球磨）、天草地域から記録がある。大型のゲンゴロウ類では、比較的個体数が多い種であったが、近年は生息環境の減少や悪化により急激に減少傾向にある。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、農地開発、水湿地の開発、池沼の改修

**特記事項**



撮影：松井英司

## チュウブホソガムシ

*Hydrochus chubu* Balfour-Browne et M.Satô, 1962

ホソガムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類 (EN)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**選定理由** 近年減少、県内局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のないため池

**生息状況** 県北地域、県央地域で生息が確認されているが、個体数は少ない。近年は確認されていない。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、農地開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## ミュキシジミガムシ

*Laccobius miyuki* Matsui, 1986

ガムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類 (EN)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 県央地域、天草地域でのみ確認されている種である。個体数は非常に少ない。近年は生息環境の減少や悪化により減少傾向にある。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、水湿地の開発、農地開発

**特記事項** 学名は、Matsui(1994)により *Laccobius miyuki* を用いた。



標本所有者：松井英司

## コガタガムシ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類（EN）  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

*Hydrophilus bilineatus cashimirensis* Redtenbacher, 1892

ガムシ科

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 県北地域、天草地域を中心に生息が確認されていた種であるが、近年生息数が激減している。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、水湿地の開発、農地開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## ホソゴマフガムシ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類（EN）  
環境省カテゴリー

*Berosus pulchellus* MacLeay, 1825

ガムシ科

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない休耕田や廃田、湿地等

**生息状況** 県南地域（人吉・球磨）以外では、県央地域（山都町）で1頭が採集されているのみである。人吉・球磨地方では、少なくともは、生息地の開発や農薬等により急激に減少していく可能性がある。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、湿地の乾燥化、水湿地の開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## ヨコミソドロムシ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類（EN）  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

*Leptelmis gracilis* Sharp, 1888

ヒメドロムシ科

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のないため池

**生息状況** 県北地域、県央地域、天草地域から記録されている。ため池に浮かぶ細かい枯れ枝を住み処にしており、熊本県では1996年以降確認されていない。灯火にも飛来する

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、農地開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## オナガシジミ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)  
環境省カテゴリー

*Araragi enthea* (Janson, 1877)

シジミチョウ科

**選定理由** 県内局限、分布境界、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 標高 300~1500mの渓谷沿いのオニグルミ林

**生息状況** 九州中央山地、県央地域、県南地域に分布している。伐採されずに  
かろうじて残ったオニグルミ林に生息しており、局所的でいずれの  
生息地も範囲は狭く、個体数も非常に少ない。林道建設等の伐採で、  
食樹が激減している。

**生存への  
脅威** 森林伐採、人工造林、道路工事、捕獲・採集

**特記事項** オニグルミ林の保護が必要。分布の南限は球磨郡山江村。



撮影：八尋勇

## メスアカミドリシジミ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)  
環境省カテゴリー

*Chrysozephyrus smaragdinus* (Bremer, 1861)

シジミチョウ科

**選定理由** 近年減少、その他（希少）

**生息環境** 標高 700m以上のヤマザクラなどのサクラ類が生育する山地

**生息状況** 県北地域、九州中央山地、県南地域に分布している。分布範囲は広  
いが、道路建設や植林のための伐採による乾燥の影響を強く受けて  
いる種で、かつての多産地でも減少は著しく、個体数は非常に少な  
くなった。シカの食害による森林の乾燥も危惧される。

**生存への  
脅威** 森林伐採、人工造林、道路工事、その他（シカ食害による乾燥化）

**特記事項** 九州中央山地の高標高地での広域林道などの建設の縮小が必要。



上段：雄♂



下段：雌♀

標本所有者：溝部忠志

## カラスシジミ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)  
環境省カテゴリー

*Fixsenia w-album fentoni* (Butler, 1882)

シジミチョウ科

**選定理由** 近年減少、その他（希少）

**生息環境** 食樹であるハルニレの生育する山地

**生息状況** 天草地域を除く県内全域に分布している。道路・キャンプ場・別荘・  
ゴルフ場・ダム建設で多くのハルニレが伐採された。各生息地はも  
ともと個体数が少なかったが、近年は激減傾向にある。わずかに 1 本  
のハルニレに依存して生息していることもある。

**生存への  
脅威** 森林伐採、土地造成、道路工事、観光開発

**特記事項** ハルニレ林の保護が必要。



撮影：田原朗敏

## ミヤマカラスシジミ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)  
環境省カテゴリー

*Fixsenia mera* (Janson, 1877)

シジミチョウ科

**選定理由** 分布境界、近年減少、その他 (希少)

**生息環境** 標高 300~1500mの山地の渓谷沿いのがれ場のクロウメモドキ群落

**生息状況** 天草地域を除く県内全域に分布している。阿蘇地方では牧野内の林内に残されたクロウメモドキに生息しているところもある。全ての生息地で個体数が少なく、道路建設のための伐採により食樹の減少、シカの食害による乾燥化で激減している。

**生存への脅威** 森林伐採、道路工事、その他 (シカ食害による乾燥化)

**特記事項** 九州中央山地での林道建設の縮小、及びシカ食害の調査、シカ防護ネットなどによる食害防止が必要。分布の南限は球磨郡あさぎり町。



撮影：寺崎昭典

## タイワンツバメシジミ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

*Everes lacturnus kawaii* Matsumura, 1926

シジミチョウ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少、その他 (希少)

**生息環境** シバハギなどの食草が生育し、植生遷移の進行によってある程度草丈が高い、ススキの生育する遷移進行途中の草原

**生息状況** 県内全域に記録があるが、都市化の波及、植生の遷移、観光地化、農地化、夏草刈りによって激減し、現在は県央・県南・天草地域にわずかな生息地が残っているだけである。いずれも生息域は狭隘で、脆弱である。

**生存への脅威** 土地造成、農地開発、観光開発、草地の開発、管理放棄、採集・捕獲、除草、火山活動、自然遷移

**特記事項** 生息環境の保全と復元、保護区の設定が必要。



撮影：田原朗敏

## ゴマシジミ (中国地方・九州亜種)

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

*Phengaris teleius daisensis* Matsumura, 1926

シジミチョウ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、分布境界、近年減少、その他 (希少)

**生息環境** 日当たりのよいワレモコウ類が生育し、シワクシケアリが生息するススキなどの草原

**生息状況** 県北地域、県央地域に分布している。年による個体数の変動が激しく、近年は極めて少ない。植生の遷移、園芸業者による食草であるワレモコウの採取、ゴルフ場建設のための開発により減少している。終齢幼虫はシワクシケアリに巣に運ばれ、シワクシケアリの卵や幼虫を食べる。

**生存への脅威** 土地造成、観光開発、草地の開発、管理放棄、捕獲・採集、火山活動、自然遷移

**特記事項** シワクシケアリの分布調査、野焼きとの関連調査、草原の管理が必要。分布の南限は上益城郡山都町 (旧蘇陽町)。多様性条例 (指定希少野生動植物)。



撮影：八尋勇

## 絶滅危惧Ⅱ類（VU）

### アオハダトンボ

*Calopteryx japonica* Selys, 1869

カワトンボ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から丘陵地のツルヨシ等の抽水植物や沈水植物が見られる砂底の清流の中流域

**生息状況** 県内全域で確認されていた。現在は主に県北地域の阿蘇地方、菊池市、山鹿市、県央地域の山都町、美里町、御船町、甲佐町、県南地域では人吉、球磨地域に見られるが、個体数は激減している。阿蘇地方では露天風呂から排水された温泉水で生息環境が悪化している。平成24年の大水害で土砂が流入し、砂底の河床が消失した。また、河川改修等でヨシ原が消失した。

**生存への脅威** 河川改修、自然遷移、水質汚濁、自然災害、ヨシ原の減少

**特記事項** 河川改修や護岸工事においては、ツルヨシ等の管理が必要である。



上段：雄♂



下段：雌♀

撮影：寺崎昭典

### ベニイトトンボ

*Ceriagrion nipponicum* Asahina, 1967

イトトンボ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

**選定理由** 近年減少、その他（希少）

**生息環境** 平地の抽水植物、浮葉植物、沈水植物が多い池沼

**生息状況** 県内全域で確認されていた。しかし、南方系の近似種であるリュウキュウベニイトトンボが侵入した池では、現在では本種の確認記録がほとんどない状況になっている。また、外来種であるオオクチバスが放された池では本種に影響が出ていると考えられる。

**生存への脅威** 池沼の改修、管理放棄、農薬使用、外来種の侵入、その他（近似種の圧迫）

**特記事項** 現状ではリュウキュウベニイトトンボの影響で生息地が消失する可能性が高い。



撮影：松原茂

### ムカシトンボ

*Epiophlebia superstes* (Selys, 1889)

ムカシトンボ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 山間の樹林に囲まれた溪流の源流

**生息状況** 県内全域で確認されていた。幼虫期が5年～8年と長く、安定した生息環境が必要である。森林伐採で溪流の環境変化が起こり、生息域が減少した。特に平成24年の大水害で溪流では大きな被害が起こった。河床が削り取られ、土砂が流入し生息環境が消失した。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、河川改修、自然災害

**特記事項** 林内の小河川の保全が必要である。



撮影：松原茂

## ウチワヤンマ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Sinictinogomphus clavatus* (Fabricius, 1775)

サナエトンボ科

**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 平地や丘陵地の抽水植物や沈水植物、浮葉植物が見られる広い池沼

**生息状況** 県内全域（阿蘇地方を除く）で確認されていた。南方系の近似種であるタイワンウチワヤンマが侵入した池では、現在では本種の確認記録がほとんどない状況になっている。また、外来種であるオオクチバスが放された池では本種に影響が出ていると考えられる。

**生存への脅威** 池沼の改修、管理放棄、その他（近似種の圧迫）、農業使用、外来種の侵入

**特記事項** 現状ではタイワンウチワヤンマの影響で生息地が消失する可能性が高い。



撮影：濱砂淳人

## アオサナエ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Nihogomphus viridis* Oguma, 1926

サナエトンボ科

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から低山地の樹林に囲まれた砂礫底の河川中流域

**生息状況** 県内全域（天草地域を除く）で確認されていた。現在は県北地域、県央地域、県南地域で確認記録があるが、生息地は限定され、個体数も激減している。生息地が中流域で河川改修時に河床の砂礫が削り取られて生息環境も悪化している。雄の成虫は胴体を上にして河川の砂地や石の上に止まって、時おり縄張りをパトロールするので確認は容易である。

**生存への脅威** 河川改修、農業使用、自然災害、水質汚濁

**特記事項** 河川工事による濁水防止等の配慮が必要である。



撮影：濱砂淳人

## フタスジサナエ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

*Trigomphus interruptus* (Selys, 1854)

サナエトンボ科

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から丘陵地の抽水植物のある池沼、周辺部には樹林が必要

**生息状況** 県内では県央地域、県北地域（阿蘇地方を除く）、県南地域（人吉・球磨）で確認されている。現在は確認地点及び個体数も減少している。多くの池で植物が繁茂し、開放水面が減少している。外来種であるオオクチバスが放された池では本種に影響が出ていると考えられる。

**生存への脅威** 池沼の改修、管理放棄、自然遷移、外来種の侵入

**特記事項** 池沼の保全と管理が必要。



撮影：松原茂

## キイロサナエ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

*Asiagomphus pryeri* (Selys, 1883)

サナエトンボ科

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から丘陵地の砂泥底の河川の穏やかな流れの中流域と湿地、周辺部に樹林が必要

**生息状況** 県内全域で確認されていた。現在では河川改修での河床の掘削、また、大水害等の土砂流入による河床の変化が見られる。生息が確認されていた湿地でも埋め立てで生息環境が失われた。それにより確認地点、個体数は激減している。

**生存への脅威** 河川改修、水質汚濁、自然災害

**特記事項** 河川工事においては河床、護岸工事に配慮が必要である。



撮影：松原茂

## キトンボ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Sympetrum croceolum* (Selys, 1883)

トンボ科

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地の岸辺に木立があり、挺水植物が多いやや深い池沼や岸辺が露出した所

**生息状況** 県内全域で確認されていたが急激に減少した種である。生息地であった池はほとんどが管理されずに、遷移が進行してしまった。岸辺にも植物が繁茂している。外来種であるオオクチバスが放された池では本種に影響が出ていると考えられる。

**生存への脅威** 水質汚濁、管理放棄、自然遷移、外来種の侵入

**特記事項** 池沼の管理と保全が必要である。



撮影：松原茂

## ナギサスズ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Caconemobius sazanami* (Furukawa, 1970)

ヒバリモドキ科

**選定理由** 県内局限、特殊生息生育環境

**生息環境** 岩礁と礫浜のある海岸

**生息状況** 県内では天草地域の天草市（旧牛深市、旧新和町）、苓北町等の自然度の高い海岸に記録がある。災害防止等で自然度の高い海岸線も護岸工事が行われ、生息環境が減少した。

**生存への脅威** 観光開発、海辺の改変等

**特記事項** 別名 ウミコオロギ。



## オキナワイトアメンボ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Hydrometra okinawana* Drake, 1951

イトアメンボ科

**選定理由** 県内局限、全国局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬などの影響の少ない薄暗い池沼、湿地

**生息状況** 本種は、近縁種であるヒメイトアメンボに比べ生息環境を選ぶため生息地は局地的である。イトアメンボと間違われやすい。県内の山間部ではほとんど見られず、生息地は開発などの影響を受けやすい低山帯や平野部に集中しており、安定した生息数を確認できる生息地は少ない。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁

**特記事項**



撮影：村田浩平

## ヒメミズカマキリ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Ranatra unicolor* Scott, 1874

タイコウチ科

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 玉名市、山都町、熊本市、宇土市、上天草市、天草市から確認されている種である。ため池で稀に見られるが、個体数は少ない。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、水湿地の開発、農地開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## セアカオサムシ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

*Hemicarabus tuberculatus* (Dejean et Boisduval, 1829)

オサムシ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少

**生息環境** 低山地から山地帯の草地や裸地

**生息状況** 天草地域を除く県内全域で生息が確認されているが、局地的である。本種が生息する草地環境は開発や植生遷移による影響を受けやすく、生息基盤は脆弱である。

**生存への脅威** 草地の開発、土地造成、道路工事、自然遷移

**特記事項**



標本所有者：渡辺高久

## ルリクワガタ

*Platycerus delicatulus delicatulus* Lewis, 1883

クワガタムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

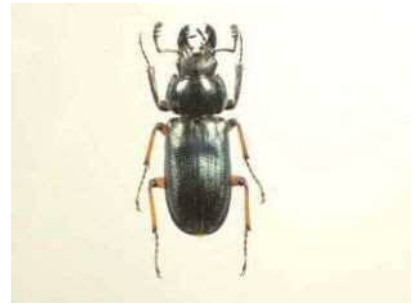
**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** ブナ等が生育する落葉広葉樹林

**生息状況** 県北地域から県南地域にかけての山地帯の自然林で生息が確認されているが、個体数は少ない。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## キュウシュウニセコルリクワガタ

*Platycerus urushiyamai* Imura, 2007

クワガタムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** ブナ等が生育する落葉広葉樹林

**生息状況** 県北地域から県南地域にかけての山地帯の自然林で生息が確認されているが、個体数は少ない。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項** 前回の選定時にはニセコルリクワガタ *Platycerus sugitai* Okuda et Fujita, 1987 として掲載されたが、九州産個体群は独立種として記載されている。



標本所有者：宮崎能

## オオクワガタ

*Dorcus hopei binodulosus* Waterhouse, 1874

クワガタムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 平地から丘陵地のクヌギ林を中心とした雑木林

**生息状況** 県央地域の丘陵地を中心に 1980 年代頃まで少ないながら見かけることができた。開発による雑木林の減少、マニア・業者による採集圧のために激減している。その後、雑木林の伐採、竹類が雑木林内に侵入して、生息環境は悪化した。マニア・業者による採集圧は減少したが、生息地は少なくなった。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、管理放棄、捕獲・採集

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## ヒメオオクワガタ九州亜種

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Dorcus montivagus adachii* (Fujita et Ichikawa, 1987)

クワガタムシ科

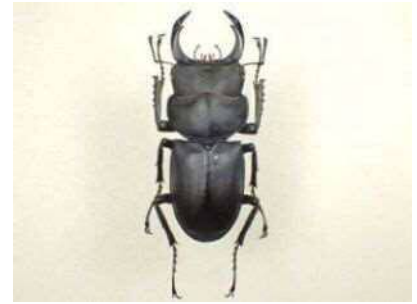
**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 地域ブナ等が生育する落葉広葉樹林

**生息状況** 県北から県南地域にかけての山地帯の自然林で生息が確認されているが、個体数は少ない。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## ムネアカセンチコガネ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Bolbocerosoma nigroplagiatum* (Waterhouse, 1875)

ムネアカセンチコガネ科

**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 放牧地や採草地などの草原

**生息状況** 天草地域を除く県内全域の放牧地やそれに隣接する草地などで生息が確認されている。かつては比較的普通に見られたが、近年、開発などによる生息環境の消失とともに個体数が激減している。

**生存への脅威** 草地の開発、管理放棄、自然遷移

**特記事項** 本種はこれまで食糞性昆虫とされてきたが、最近の研究で地下生菌食であることが解明された。



撮影：寺崎昭典

## ミヤマダイコクコガネ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Copris pecuarius* Lewis, 1884

コガネムシ科

**選定理由** 県内局限、その他（希少）

**生息環境** 山地帯の森林

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）で生息が確認されている。本種は、熊本県、大分県、宮崎県の県境を中心とした山地帯に生息している。県内での生息情報は少ない。通常、森林のシカの糞に依存しているが、シカの増加に伴う森林衰退による本種への影響が懸念される。

**生存への脅威** その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項** ダイコクコガネよりも標高の高い山地に生息する。



標本所有者：井手芳郎

## クロモンマグソコガネ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

*Aphodius variabilis* Waterhouse, 1875

コガネムシ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 放牧地、河川敷

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）で生息が確認されているが、生息状況の詳細は不明である。全国的に激減し、希少な種になっている。他県において、河川敷の犬糞に依存している個体群が再発見され始めた。しかし、犬の飼い主のマナー向上により放置される犬糞が減りつつあるため、河川敷の生息基盤も脆弱である。

**生存への脅威** 草地の開発、管理放棄

**特記事項**



標本所有者：井手芳郎

## オオチャイロハナムグリ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

*Osmoderma opicum* Lewis, 1887

コガネムシ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境、その他（希少）

**生息環境** 山地帯の洞のある大径木が生育する自然林

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）、九州中央山地、県南地域（球磨地方）を中心とした山地帯の自然度の高い森林内に生息しているが、個体数は少ない。生息基盤である大木の樹洞は近年の森林伐採などによって減少しており、生息状況は危機的である。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、自然災害、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## アカマダラハナムグリ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー  
情報不足（DD）

*Anthracophora rusticola* Burmeister, 1842

コガネムシ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少

**生息環境** 平地や丘陵地のクヌギ林を中心とした雑木林

**生息状況** かつては県北地域（阿蘇地方）県央地域、県南地域（球磨地方）を中心としたクヌギ林などで比較的普通に見られたが、近年は生息環境の消失とともに個体数が激減している。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成

**特記事項** 最近、幼虫は猛禽類などの動物食を中心とする大型鳥類の巣で成長することが解明された。別名アカマダラコガネ



標本所有者：宮崎能

## コカブトムシ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Eophileurus chinensis chinensis* (Faldermann, 1835)

コガネムシ科

**選定理由** 全国局限、近年減少

**生息環境** 平地から低山地の雑木林

**生息状況** 天草地域を除く県内全域の里山周辺の雑木林や低山の樹林地などで生息が確認されているが、里山の荒廃や低地森林の開発などにより個体数が激減している。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## アオタマムシ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Eurythyrea tenuistriata* Lewis, 1892

タマムシ科

**選定理由** 全国局限、その他（希少）

**生息環境** 山地帯の針葉樹が混生する自然林

**生息状況** 県央地域、県南地域の山地帯の自然度の高い森林に生息すると思われるが、確認例は少ない。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、生息環境の減少、消滅が懸念される。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## キンヘリタマムシ九州亜種

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Lamprodila pretiosa inexpecta* (Y. Kurosawa, 1953)

タマムシ科

**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 低山地のハルニレが生育する雑木林や河畔林

**生息状況** 県央地域、県南地域で生息が確認されているが、生息地は局地的である。開発に伴う雑木林、河畔林の伐採などによる生息環境の減少、消失が懸念される。

**生存への脅威** 森林伐採、河川改修、管理放棄、自然災害

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## アオナガタマムシ

*Agrilus planipennis* Fairmaire, 1888

タマムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

**選定理由** 全国局限、その他（希少）

**生息環境** 山地帯のサワグルミなどが生育する自然林

**生息状況** 県央地域、県南地域の山地帯の自然林で生息が確認されているが、個体数は少ない。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、生息環境の減少、消滅が懸念される。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：関昭弘

## ルリナカボソタマムシ

*Coraebus niponicus* Lewis, 1894

タマムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、分布境界

**生息環境** 海岸に近い温暖な地域の草地や路傍

**生息状況** 暖地性の種で天草海岸の草地や路傍に生息しているが、分布は局所的である。海岸沿いのホウロクイチゴ等のイチゴ類の生育地で見られる。開発による生息環境の減少、消滅が懸念される。

**生存への脅威** 土地造成、道路工事、管理放棄、自然遷移

**特記事項**



標本所有者：堤内雄二

## ヨツボシカミキリ

*Stenygrinum quadrinotatum* Bates, 1873

カミキリムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類（EN）

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少

**生息環境** 平地から低山地のクヌギ、コナラ、クリなどを中心とした雑木林

**生息状況** 天草地域を除く県内全域の里山周辺にある雑木林などで生息が確認されている。全国的に減少している種で、県内でもかつては各地で記録されていたが、低地森林の開発や里山の荒廃などにより生息地や個体数が激減している。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、管理放棄

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## クスベニカミキリ

*Pyrestes nipponicus* Hayashi, 1987

カミキリムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少

**生息環境** 平地から低山地のクスノキ科植物が多く生育する樹林地

**生息状況** 天草地域を除く県内全域の里山周辺にある樹林地などで生息が確認されている。全国的に減少している種で、県内でもかつては各地で記録されていたが、都市化にともなう森林伐採や里山環境の変化などとともに個体数が激減している。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成

**特記事項**



標本所有者：竹下富

## ミドリカミキリ

*Chloridolum viride* (Thomson, 1864)

カミキリムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

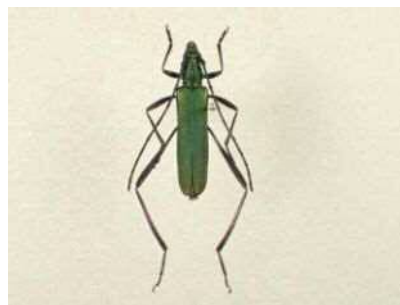
**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 平地から低山地のクヌギ、コナラ、クリなどを中心とした雑木林

**生息状況** 天草地域を除く県内全域の里山周辺にある雑木林や低山地の森林などで生息が確認されている。かつては比較的普通に見られたが、低地森林の開発や里山の荒廃などにより生息地や個体数が激減している。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、管理放棄

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## モンクロベニカミキリ

*Purpuricenus lituratus* Ganglbauer, 1886

カミキリムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 平地から低山地の雑木林

**生息状況** 県内では阿蘇地方の南小国町で確認されている。クヌギ等の切り株よりでた新葉を好む傾向がある。詳細に関しては不明である。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## トラフカミキリ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Xylotrechus chinensis chinensis* Chevrolat, 1852

カミキリムシ科

**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 平地から低山地のクワ類が生育する里山周辺

**生息状況** 天草地域を除く県内全域で生息が確認されている。かつては低地の桑畑周辺でよく見られたが、養蚕業の衰退で桑畑が放棄され生息地が消失している。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、管理放棄、農地開発

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## オオトラカミキリ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Xylotrechus villioni* (Villard, 1892)

カミキリムシ科

**選定理由** 県内局限、その他（希少）

**生息環境** 山地帯のモミなどの針葉樹が混生する自然林

**生息状況** 県南地域の山地帯の自然度の高い森林で生息が確認されているが、個体数は少ない。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、生息環境の減少、消滅が懸念される。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## ヒメヒロウドカミキリ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

*Acalolepta degener* (Bates, 1873)

カミキリムシ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境、その他（希少）

**生息環境** オトコヨモギが生育する明るい草地

**生息状況** 県北地域、県央地域で生息が確認されているが、分布は局所的である。本種が生息する草地環境は開発や植生遷移による影響を受けやすく、生息基盤は脆弱である。

**生存への脅威** 草地の開発、土地造成、自然遷移

**特記事項**



標本所有者：宮崎能



## ムネホシシロカミキリ

*Olenecamptus clarus* Pascoe, 1859

カミキリムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

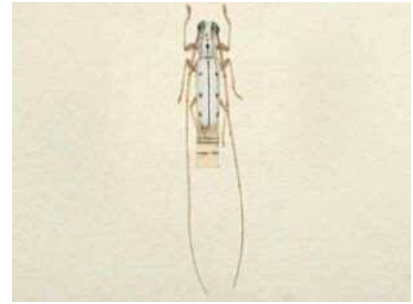
**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 平地から低山地のクワ類が生育する里山周辺

**生息状況** 天草地域を除く県内全域で生息が確認されている。かつては平地の桑畑周辺でよく見られたが、養蚕業の衰退で桑畑が放棄され生息地が消失している。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、管理放棄、農地開発

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## イッシキキモンカミキリ

*Glenea centroguttata* Fairmaire, 1897

カミキリムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 低山地のクワ類やヌルデが生育する里山周辺

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）、県央地域で生息が確認されているが、分布は局所的である。開発に伴う伐採や寄主植物であるクワ類、ヌルデ類の生育する里山がなくなっている。生息地も個体数も減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、管理放棄

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## アサカミキリ

*Thyestilla gebleri* (Faldermann, 1835)

カミキリムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

**選定理由** 全国局限、県内局限、その他（希少）

**生息環境** アザミやヨモギ類が生育する草地

**生息状況** アサの害虫として 1960 年代まで県南地域での生息が確認されていたが、アサの栽培禁止とともにその後の確認情報は途絶えていた。しかし、近年、県北地域の数ヶ所でアザミ類に依存する本種の生息が確認された。本種が生息する草地環境は開発や植生遷移による影響を受けやすく、生息基盤は脆弱である。

**生存への脅威** 土地造成、草地の開発、自然遷移

**特記事項**



撮影：溝部忠志

## コウベツブゲンゴロウ

*Laccophilus kobensis* Sharp, 1873

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 県内全域で生息が確認されているが、近年は生息環境の減少や悪化により減少傾向にある。個体数は、多くはない。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、水湿地の開発、農地開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## タテナミツブゲンゴロウ（ルイスツブゲンゴロウ）

*Laccophilus lewisius* Sharp, 1873

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

**選定理由** 近年減少、県内局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 本種は、県内全域に普通に生息していた種であり、熊本県R L 2014においては、カテゴリー外であったが、近年生息数を減少させている。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、水湿地の開発、農地開発

**特記事項** ルイスツブゲンゴロウの和名が使われることが多くなったが、以前より使われており、より種の形質を的確に表しているタテナミツブゲンゴロウをここでは使用する。



標本所有者：松井英司

## チャイロマメゲンゴロウ

*Agabus regimbarti* Zaizev, 1906

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 県南地域を除く県内全域で生息が確認されているが、個体数は多くはない。近年は生息環境の減少や悪化により減少傾向にある。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、水湿地の開発、農地開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## セスジゲンゴロウ

*Copelatus japonicus* Sharp, 1873

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 県内全域で記録されている種である。*Copelatus*属は、基本的に、乾燥しやすいような不安定な環境を好む傾向にある。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、水湿地の開発、農地開発

**特記事項** *Copelatus*属は、外部形態による区別は難しい種が多く、♂交尾器を抜いて検鏡する必要がある。



標本所有者：松井英司

## ウスイロシマゲンゴロウ

*Hydaticus rhantoides* Sharp, 1882

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 県内全域の海岸に近いため池等からのみ生息が確認されており、山間地域からは確認されることがなかったが、2010年以降、内陸部の人吉・球磨地方で確認されるようになったことは、特筆に値する。全体的には、生息環境の減少や水質悪化により減少傾向にある。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、水湿地の開発、農地開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## マルヒラタガムシ

*Enochrus subsignatus* (Harold, 1877)

ガムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 県南地域を除く県内全域から生息が確認されている種であるが、近年は減少している。生息地の一つである天草市の休耕田は乾燥化が進んでおり、絶滅してしまう可能性が高い。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、水湿地の開発、農地開発、湿地の乾燥化

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## コガムシ

*Hydrochara affinis* (Sharp, 1873)

ガムシ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)  
環境省カテゴリー  
情報不足 (DD)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）、県央地域で生息が確認されているが、近年は生息環境の減少や悪化により減少傾向にある。灯火にも飛来するが、個体数は少ない。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、水湿地の開発、農地開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## ヒメシロチョウ

*Leptidea amurensis* (Ménétrières, 1858)

シロチョウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類 (EN)

**選定理由** 全国局限、県内局限、分布境界、近年減少、その他（希少）

**生息環境** ツルフジバカマなどの食草が生育する、日当たりのよい火山性草原

**生息状況** 県北地域、県央地域に分布している。泉村で1例記録されているが偶産であろう。1999年に菊池市での記録があり、記録の蓄積が求められる。県北地域には生息地が多いが、いずれの生息域も観光地化、宅地化、植生の遷移によって狭小になっており、個体数も少ない。ゴルフ場近郊の生息地では薬剤散布の影響を受ける可能性がある。他県から開発や草原の荒廃によって激減したとの報告があり、繁殖力の弱い種と考えられる。



撮影：寺崎昭典

**生存への脅威** 土地造成、道路工事、農地開発、観光開発、草地開発、管理放棄、火山活動、自然遷移

**特記事項** 草原の維持・管理が必要。分布の南限は上益城郡山都町（旧蘇陽町）。

## ウラゴマダラシジミ

*Artopoetes pryeri* (Murray, 1873)

シジミチョウ科

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 分布境界、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 標高 200mの低標高地から標高 1500mの高標高地の、イボタノキ等のモクセイ科が生育する小川や溪谷沿い

**生息状況** 県北地域、九州中央山地、県南地域に分布している。生息地数は多いが、いずれの生息地でもゴルフ場・キャンプ場・ペンション・別荘・道路建設などによる生息地の消滅が見られ、観光地化の影響を大きく受けている。九州中央山地ではシカの食害による乾燥の影響も懸念される。



撮影：田原朗敏

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、道路工事、農地開発、観光開発、河川改修、農薬使用、その他（シカ食害による乾燥化）

**特記事項** 観光開発の抑制が必要。県北地域と九州中央山地の個体群には形態に異なりがあり、それぞれ原野型、山地型の名称がある。分布の南限は球磨郡山江村。

## ウラキンシジミ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Ussuriana stygiana* (Butler,1881)

シジミチョウ科

**選定理由** 近年減少、その他（希少）

**生息環境** 標高 300～1600m前後の山地で、シオジなどのモクセイ科の生育する広葉樹林

**生息状況** 天草を除く県内全域に分布している。分布範囲は広いが局所的で、生息域も狭く、わずか1本の食樹を生息地としている場合もある。植林や道路建設のための伐採による食樹の減少と乾燥、シカの食害による林内の乾燥により生息地の環境悪化、狭小化が認められる。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、道路工事、その他（通行車両による踏み付け）、その他（シカ食害による乾燥化）

**特記事項** 伐採の抑制が必要。



撮影：田原朗敏

## ウラミスジシジミ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Wagimo signatus* (Butler,1882)

シジミチョウ科

**選定理由** 県内局限、分布境界、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 低山地のクヌギ・コナラを中心とした混交林

**生息状況** 県北地域（阿蘇地方）に分布している。生息域は狭く、個体数も少ない。別荘・キャンプ場建設、シイタケ栽培のために食樹であるクヌギ、コナラが伐採されている。また伐採後の生息地では野焼きが行われており、残った食樹が枯れる恐れがある。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、観光開発、その他（野焼き）

**特記事項** クヌギ・コナラの植栽や生息地での野焼きの中止が必要。分布の南限は阿蘇郡産山村。別名 ダイセンシジミ。



撮影：溝部忠志

## ハヤシミドリシジミ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Favonius ultramarinus* (Fixsen,1887)

シジミチョウ科

**選定理由** 近年減少、その他（希少）

**生息環境** 山麓の明るい高原のカシワ林

**生息状況** 県北地域、県央地域に分布している。分布域は広いが、いずれの生息地でもわずかに残されたカシワに依存して生息している。それぞれの生息地は連続したものではない。カシワの生長、及びキャンプ場建設、シイタケ栽培のための伐採によって、生息域が狭くなって個体数も減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、土地造成、道路工事、観光開発、その他（カシワ林の成木化）

**特記事項** カシワの幼木の育成、及びカシワ林の保護が必要。



撮影：八尋勇

## エゾミドリシジミ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Favonius jezoensis* (Matsumura, 1915)

シジミチョウ科

**選定理由** 近年減少、その他（希少）

**生息環境** 山地にあるクヌギ、ミズナラなどの広葉樹林

**生息状況** 県北地域、九州中央山地、県南地域に分布している。稀に里山で記録されることがある。分布範囲は広いが、特に九州中央山地においては道路建設のための伐採による食樹の減少と乾燥の影響を受け、生息地・個体数が減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、道路工事

**特記事項** 道路建設による伐採の縮小が必要。



撮影：田原朗敏

## オオミドリシジミ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Favonius orientalis* (Murray, 1875)

シジミチョウ科

**選定理由** 近年減少、分布境界

**生息環境** 平地から高標高地のコナラ、クヌギ等が生育する落葉広葉樹林

**生息状況** 天草地域を除く県内全域に分布している。分布域は広いが、主要産地である阿蘇市などの低標高地において道路・ゴルフ場・別荘などの建設に伴う開発が著しく、生息地の消滅が見られる。また高標高地においてもシカの食害による林内の乾燥も認められ、個体数が激減傾向にある。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、道路工事、観光開発、管理放棄、その他（シカ食害による乾燥化）

**特記事項** 県北地域での開発の抑制が必要。



上段：雄♂



下段：雌♀

標本所有者：溝部忠志

## クロミドリシジミ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Favonius yuasai* Shirôzu, 1947

シジミチョウ科

**選定理由** 近年減少、県内局限、その他（希少）

**生息環境** 里山にあるクヌギ林

**生息状況** 県北地域、県央地域に分布している。いずれの生息地も狭く、個体数も少ない。樹齢を重ねたクヌギ林への依存的性格の強い種だが、工場・ホテル・道路建設、シイタケ栽培のための食樹の伐採の影響で減少している。生息地の環境悪化は著しい。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、道路工事、観光開発

**特記事項** 樹齢を重ねたクヌギの保護が必要。



撮影：八尋勇

## ヒサマツミドリシジミ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Chrysozephyrus hisamatsusanus* (Nagami & Ishiga, 1935)

シジミチョウ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 標高 300～500m前後のイチイガシ等が生育する自然度の高い常緑広葉樹林

**生息状況** 県南地域、九州中央山地に分布しているが、生息地は狭小で個体数は非常に少ない。製紙・キャンプ場・林道建設のための伐採により食樹が減少している。さらに伐採やシカの食害による乾燥が危惧される。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、観光開発、農薬使用、道路工事、その他（シカ食害による乾燥化）

**特記事項** 広葉樹林の保全が必要。



上段：雄♂



下段：雌♀

標本所有者：溝部忠志

## シルビアシジミ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類（EN）

*Zizina emelina* (de l'Orza, 1869)

シジミチョウ科

**選定理由** 県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** ミヤコグサなどの食草が生育するシバ型火山性草原、河川敷などの明るい荒地

**生息状況** 現在は県北地域、県央地域に分布している。過去に記録がある多数の生息地は河川開発、都市化の波及、キャンプ場建設、シバ型草原のススキ草原への遷移などによって消滅し、個体数は激減している。

**生存への脅威** 土地造成、道路工事、火山活動、観光開発、河川改修、草地の開発、管理放棄、農薬使用、捕獲・採集、自然遷移

**特記事項** シバ型草原の保全が必要。



撮影：寺崎昭典

## オオウラギンヒョウモン

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類（CR）

*Fabriciana nerippe* (C.&R.Felder, 1862)

タテハチョウ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 平地から低山地にかけての日当たりのよい、スミレなどの食草が生育するシバ型草原とススキ草原の混在地

**生息状況** 県北地域、県央地域、県南地域に記録があるが、宅地化の波及、農営形態の変化に伴う草原の荒廃、観光地化、道路建設などによって現在は県北地域、県央地域にのみ生息地が残っている。生息地数は減少したが、現在、県北地域、県央地域での生息は良好である。

**生存への脅威** 道路工事、農地開発、観光開発、草地の開発、管理放棄、農薬使用、捕獲・採集、軍事演習、火山活動、自然遷移

**特記事項** 採草、火入れなどの人為的な環境維持が必要。多様性条例（指定希少野生動植物）。



撮影：八尋勇

## ヒカゲチョウ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Lethe sicelis* (Hewitson, 1862)

タテハチョウ科

**選定理由** 県内局限、分布境界、近年減少、その他（希少）

**生息環境** メダケなどが生えるやや明るい樹林内や林縁部

**生息状況** 県北地域に分布している。分布が局所的で生息域が狭く、個体数も少ない。宅地造成・道路建設・シイタケ栽培のための伐採により環境が悪化し、生息域がますます狭くなってきている。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、道路工事、観光開発

**特記事項** 生息地における観光開発の抑制が必要。分布の南限は阿蘇市（旧一の宮町）。



撮影：寺崎昭典

## クロヒカゲモドキ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類（EN）

*Lethe marginalis* (Motschulsky, 1860)

タテハチョウ科

**選定理由** 県内局限、分布境界、その他（希少）

**生息環境** クヌギ・コナラなどからなる二次林、薄暗く、小川が流れる湿度の高い林縁部の陰地

**生息状況** 県北地域に分布している。局所的で個体数、生息地数も少なく、いずれの生息地も狭小である。別荘、ペンション建設、シイタケ栽培のための伐採による環境悪化が認められる。

**生存への脅威** 森林伐採、道路工事、観光開発、湿地の開発、湿地の乾燥化、捕獲・採集、湿地の乾燥化

**特記事項** 観光開発の抑制、生息地の乾燥化防止が必要。分布の南限は阿蘇市（旧一の宮町）。



撮影：八尋勇

## キバネセセリ

熊本県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
環境省カテゴリー

*Burara aquilina chrysaeglia* (Butler, 1882)

セセリチョウ科

**選定理由** 近年減少、その他（希少）

**生息環境** ハリギリなどの食樹が生育する山地の広葉樹林

**生息状況** 県北地域、九州中央山地、県南地域に分布している。分布域は広いが、個体数は少ない。生息地では道路建設のための伐採、道路のアスファルト化、シカの食害による乾燥が認められ減少傾向にある。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、道路工事、その他（シカ食害による乾燥化）

**特記事項** 伐採の抑制、生息地の乾燥化防止が必要。



撮影：田原朗敏



## 準絶滅危惧（NT）

### ヤクシマトゲオトンボ

*Rhipidolestes yakusimensis* Asahina, 1951

ヤマイトトンボ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）  
環境省カテゴリー

**選定理由** 特殊生息生育環境、近年減少、その他（希少）

**生息環境** 樹林に囲まれた沢水が滴るコケ等が見られる崖

**生息状況** かつて県内全域で確認されていた。現在も各地域で確認されているが、10年前に確認されていた生息地が消失したところも多い。山地の神社等で、崖地に水が滴っている箇所では生息地が残されているが、全体的に減少が大きい。原因としては林道工事、森林伐採と平成24年の大水害による土砂崩れ等が考えられる。生息地が狭く、移動性が低いために環境変化には弱い種である。

**生存への脅威** 道路工事、森林伐採、自然遷移、水質汚濁、土砂流入、

**特記事項** 林道工事等には渓流域の保全が必要である。



撮影：寺崎昭典

### キイトトンボ

*Ceriagrion melanurum* Selys, 1876

イトトンボ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から山地の抽水植物や浮葉植物、沈水植物が見られる池沼や休耕田や湿地

**生息状況** かつて県内全域で確認されていた。現在も各地域で確認されている。しかし、池沼の管理がなされず、遷移が進行し開放水面がなくなり、陸地化しているところも多い。また、外来種であるオオクチバス等が放された池では、本種に影響が出ていると考えられる。休耕田も放棄されている場合があるために生息環境は悪化している。

**生存への脅威** 管理放棄、自然遷移、外来種の侵入、湿地の乾燥化、

**特記事項** 池沼湿地の管理が必要である。



撮影：八尋勇

### セスジイトトンボ

*Paracercion hieroglyphicum* (Brauer, 1865)

イトトンボ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から丘陵地の浮揚植物や沈水植物が多く見られる池沼

**生息状況** 県内全域で確認されていた。現在では10年前に確認されていた池沼も管理がなされず、遷移が進行し開放水面はなくなり、陸地化している。また、外来種であるオオクチバス等が放された池では本種に影響が出ていると考えられる。

**生存への脅威** 管理放棄、自然遷移、外来種の侵入、

**特記事項** 池沼の管理が必要である。



撮影：松原茂

## ムスジイトトンボ

*Paracercion melanotum* (Selys, 1876)

イトトンボ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地の浮揚植物や沈水植物が多く見られる広い池沼

**生息状況** 県内全域で確認されていた。現在では 10 年前に確認されていた池沼も管理がなされず、遷移が進行し開放水面がなくなり、陸地化している。また、外来種であるオオクチバス等が放された池では本種に影響が出ていると考えられる。

**生存への脅威** 管理放棄、自然遷移、外来種の侵入

**特記事項** 池沼の管理が必要である。



撮影：松原茂

## アジアイトトンボ

*Ischnura asiatica* Brauer, 1865

イトトンボ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地や丘陵地の抽水植物・浮葉植物の繁茂する池沼、湿地や水田

**生息状況** 県内全域で個体数は少ないが、多くの生息地が確認されていた。しかし、ここ 10 年程で生息地である池沼の環境が急激に悪化し、他のイトトンボ類と同じく、生息地及び個体数も減少した。

**生存への脅威** 管理放棄、自然遷移、池沼の改修、水質汚濁、農薬使用

**特記事項** 池沼の管理と維持に努める必要がある。



撮影：松原茂

## タベサナエ

*Trigomphus citimus tabei* (Asahina, 1949)

サナエトンボ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から丘陵地の樹林に囲まれた池沼、穏やかな流れの小川や水路

**生息状況** 天草地域を除く県内全域で確認されていた。現在では池沼等では管理がなされず、植生の遷移が進行して、生息環境が著しく悪化している。また、水路や小川も改修やセメント張りになり、県内でも他県と同じく生息地が減少している。また、外来種であるオオクチバス等が放された池では本種に影響が出ていると考えられる。

**生存への脅威** 管理放棄、池沼の改修、埋め立て、外来種の侵入、水質汚濁

**特記事項** 池沼の管理が必要である。



撮影：松原茂

## オグマサナエ

*Trigomphus ogumai* Asahina, 1949

サナエトンボ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から丘陵地で、周辺に樹林のある抽水植物の多い、開放水面が広い池沼

**生息状況** かつて県北地域を除く県内全域で確認されていた。現在では池沼等の管理がなされず、植生の遷移が進行して、生息環境が著しく悪化している。確認される生息地でも個体数は急激に減少している。また、外来種であるオオクチバス等が放された池では、本種に影響が出ていると考えられる。

**生存への脅威** 管理放棄、池沼の改修、埋め立て、外来種の侵入、水質汚濁

**特記事項** 池沼の管理が必要である。



撮影：松原茂

## タイリクアカネ

*Sympetrum striolatum imitoides* Bartenev, 1919

トンボ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地の広く少し水深のある池沼、海岸沿いの汽水域

**生息状況** かつて県内全域で確認されていたが、急激に減少した種である。現在は多くの池沼の管理がなされず、植物が繁茂し開放水面が減少している。あるいは改修で土手の護岸工事等で生息環境が悪化した。また、農業や生活排水が流入した池も多い。広い池なので、外来種であるオオクチバス等がよく放流されているので、本種には影響が出ていると考えられる。

**生存への脅威** 管理放棄、池沼の改修、農薬使用、水質汚濁、外来種の侵入

**特記事項** 池沼の管理が必要である。



撮影：松原茂

## アソキマダラウマ

*Neotachycines asoensis* Sugimoto et Ichikawa, 2003

カマドウマ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 全国局限、県内局限、模式産地

**生息環境** 丘陵地から低山地森林の林床

**生息状況** 生息が確認されたのは熊本県と宮崎県である。県内では県北地域（大津町）の照葉樹林地やクヌギを主体とした広葉樹林の林床に生息していると推定される。生態や幼虫期は不明である。宮崎県では霧島地域の山麓照葉樹林内で記録されている。

**生存への脅威** 土地造成、森林伐採、人工造林

**特記事項** 1998年に採集された1♂1♀を基に新種記載がなされた。模式産地は大津町。

## ウンゼンツユムシ

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

*Ducetia unzenensis* Yamasaki, 1983

ツユムシ科

**選定理由** 県内局限、分布境界

**生息環境** 山地森林

**生息状況** 九州中央山地（内大臣・五木村）及び県南地域（市房山）の自然度の高い広葉樹林の樹上に生息している。樹上性であるために、成体の確認は困難である。夜間は移動しながら鳴くので、識別が可能である。  
シカの食害で林床の植生が消失し、生息環境は悪化している。

**生存への脅威** 森林伐採、道路建設、その他（シカの食害による乾燥化）

**特記事項**

## カヤコオロギ

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

*Euscyrthus japonicus* Shiraki, 1930

マツムシ科

**選定理由** 近年減少

**生息環境** イネ科草本の多い草地

**生息状況** 主に県北地域の阿蘇地方の草地には見られるが、草地が維持されてない地域では個体数が減少している可能性が高く、今後上位のカテゴリーになる可能性がある。

**生存への脅威** 草地の開発、管理放棄

**特記事項**

## イナゴモドキ

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

*Mecostethus parapleurus* (Hagenbach, 1882)

バッタ科

**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 山地草原

**生息状況** 県内の主な生息地は阿蘇地方の草原である。生息地が局所的で、分布に偏りがある。阿蘇地方では草原の維持管理ができなくなっている所が多く、生息環境が減少している。

**生存への脅威** 管理放棄、草地の開発

**特記事項** 阿蘇地方の草原維持が必要である。

## エゾハルゼミ

*Terpnosia nigricosta* (Motschulsky, 1866)

セミ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、近年減少、その他 (希少)

**生息環境** ブナがみられる落葉広葉樹林帯

**生息状況** 県北地域 (阿蘇地方)、九州中央山地、県南地域 (球磨地方) で確認されているが、生息地・個体数の減少が大きい。特に中央山地でのブナ帯での樹木の枯死が著しく、さらにシカ類の食害で林内の乾燥化が進行している。

**生存への脅威** 森林伐採、その他 (シカによる食害)、自然災害

**特記事項**



撮影：西田圭志

## ヒラタミミズク

*Tituria angulata* (Matsumura, 1912)

ミミズク科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 低地から山地の常緑広葉樹林

**生息状況** 天草地域を除く県内全域で確認されている。多くはライトトラップによる記録である。詳細な調査を行えば生息地の確認は増加すると考えられる。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、その他 (シカの食害による乾燥化)

**特記事項**



撮影：西田圭志

## コオイムシ

*Appasus japonicus* Vuillefroy, 1864

コオイムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 県内全域で生息が確認されているが、近年は生息環境の減少や悪化により減少傾向にある。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、水湿地の開発、農地開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## シロヘリツチカメムシ

*Canthophorus niveimarginatus* Scott, 1874

ツチカメムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 県内局限、近年減少、特殊生息生育環境、その他 (希少)

**生息環境** カナビキソウの生育する草地

**生息状況** 半寄生植物のカナビキソウは明るくて広い背丈の低いところに生育しているために、シロヘリツチカメムシの生息環境は限定されている。県内では県北地域で確認されているが、確認地点・個体数は限定されている。調査が十分には行われていない。

**生存への脅威** 土地造成、自然遷移、道路工事

**特記事項** カナビキソウの分布調査が必要である。



撮影：宮崎能

## アイヌハンミョウ

*Cicindela gemmate aino* Lewis, 1891

ハンミョウ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 主に河川中流域の転石の見える川原

**生息状況** 県北地域、県央地域、県南地域の河川中流域から上流域にかけて局地的に生息しているが、個体数は少ない。河川改修や護地域岸工事などによる生息地が減少している。

**生存への脅威** 河川改修、土砂流入、自然災害

**特記事項**



標本所有者：井手芳郎

## ホソハンミョウ

*Cylindera gracilis* (Pallas, 1777)

ハンミョウ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**選定理由** 全国局限、県内局限、その他 (希少)

**生息環境** 低山地から山地帯の疎林や二次草原

**生息状況** 県北地域 (阿蘇地方)、県央地域で生息が確認されているが、分布は局所的である。疎林や二次草原が生息地であるが、飛ばないで地面を素早く走り回って餌を捕獲している。特に生息環境の変化に弱い種であるため、開発が行われ、草地の維持が出来なくなると急激に個体数が減少する。

**生存への脅威** 草地の開発、土地造成、自然遷移

**特記事項**



標本所有者：井手芳郎

## クロカタヒロオサムシ

*Calosoma maximowiczi* (Morawitz, 1863)

オサムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

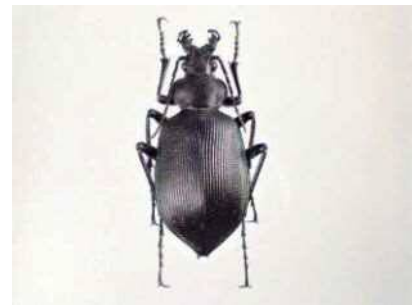
**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 平地から低山地の樹林地周辺

**生息状況** 県北地域、県央地域、天草地域で生息が確認されているが、分布は局所的である。開発に伴う森林伐採や里山の荒廃などにより個体数が減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成

**特記事項**



標本所有者：渡辺高久

## マイマイカブリ

*Damaster blaptoides blaptoides* Kollar, 1836

オサムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から低山地の樹林地周辺

**生息状況** 県内全域に広く生息しているが、開発に伴う森林伐採や里山の荒廃などにより、餌であるカタツムリ類の減少とともに個体数が減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成

**特記事項**



撮影：濱砂淳人

## アカマダラセンチコガネ

*Ochodaeus maculatus maculatus* Waterhouse, 1875

アカマダラセンチコガネ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から低山地の雑木林

**生息状況** 天草地域を除く県内全域の里山周辺の雑木林や低山の樹林地などで生息が確認されている。里山の荒廃や低地森林の開発などにもない個体数が減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、管理放棄

**特記事項** 本種はこれまで食糞性昆虫とされてきたが、最近の研究で地下生菌食であることが解明された。



標本所有者：宮崎能

## クロカナブン

*Rhomborhina polita* Waterhouse, 1875

コガネムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から低山地のクヌギ、コナラなどを中心とした雑木林

**生息状況** 県北地域から県南地域にかけての里山周辺から低山地の雑木林などで生息が確認されている。里山の荒廃や低地森林の開発などにともない個体数が減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、管理放棄

**特記事項**



撮影：寺崎昭典

## キョウトアオハナムグリ

*Protaetia lenzi* (Harold, 1876)

コガネムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から低山地のクヌギ、コナラなどを中心とした雑木林

**生息状況** 県北地域から県南地域にかけての里山周辺から低山地の雑木林などで生息が確認されているが、生息地は局所的である。里山の荒廃や低地森林の開発などで個体数が減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、管理放棄

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## タマムシ

*Chrysochroa fulgidissima fulgidissima* (Schonherr, 1817)

タマムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 平地から低山地のエノキなどが生育する雑木林や河畔林

**生息状況** 県内全域に広く生息している。かつては社寺林、公園、河畔林などのエノキ周辺を飛翔する姿がよく見られたが、都市化や河川改修などによる生息地の消失とともに個体数が減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、河川改修

**特記事項** 別名 ヤマトタマムシ。



撮影：濱砂淳人



## クロマダラタマムシ

*Nipponobuprestis querceti* (E.Saunders, 1873)

タマムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少

**生息環境** 平地から低山地のエノキなどが生育する雑木林や河畔林

**生息状況** 県央地域、県南地域で生息が確認されているが、都市化や河川改修などによる生息地の消失とともに個体数が減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、河川改修

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## ヘイケボタル

*Luciola lateralis* Motschulsky, 1860

ホタル科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から低山地の水田、池沼周辺

**生息状況** 県内全域で生息が確認されている。水田域を中心に広く分布すると思われるが、水田の区画整備や池沼の改修などで個体数が減少している。

**生存への脅威** 農地開発、池沼の改修、管理放棄、農薬使用

**特記事項**



撮影：寺崎昭典

## ヒメボタル

*Luciola parvula* Kiesenwetter, 1874

ホタル科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 平地から低山地の湿度の高い樹林地、竹林

**生息状況** 県内全域でいくつかの生息地が確認されているが、低地林の開発などによって個体数が減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## ヤマトヒメメダカカッコウムシ

*Neohydnius hozumii* Nakane, 1981

カッコウムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、特殊生息生育環境

**生息環境** 河口汽水域や池沼、湿地などのヨシ原

**生息状況** 県内全域の主に河川下流域で生息が確認されている。本種の生息環境はヨシ原に限定されており、河川改修や護岸工事などによる影響を受けやすく、生息環境が減少している。

**生存への脅威** 池沼の改修、河川改修、水湿地の開発、ヨシ原の減少

**特記事項**



標本所有者：堤内雄二

## ルリヒラタムシ

*Cucujus mniszechi* Grouvelle, 1874

ヒラタムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、その他 (希少)

**生息環境** 山地帯の自然度の高い森林内

**生息状況** 県北地域から県南地域にかけての山地帯の自然林で生息が確認されているが、個体数は少ない。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他 (シカ食害による森林の乾燥化)

**特記事項**



標本所有者：井手芳郎

## オオキノコムシ

*Encaustes praenobilis* Lewis, 1883

オオキノコムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、その他 (希少)

**生息環境** 山地帯の大型キノコ類が生育する自然林内

**生息状況** 県北地域から県南地域にかけての山地帯の自然林で生息が確認されているが、個体数は少ない。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他 (シカ食害による森林の乾燥化)

**特記事項**



標本所有者：井手芳郎

## ミカドテントウ

*Phaenochilus mikado* (Lewis, 1896)

テントウムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 平地から低山地のイチイガシ大木が見られる樹林地

**生息状況** 県北地域から県南地域にかけての社寺林等で生息が確認されているが、生息地は局地的である。開発に伴う森林伐採や乾燥化による生息地の減少が懸念される。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成

**特記事項**



撮影：寺崎昭典

## ハラグロオオテントウ

*Callicaria superba* (Mulsant, 1853)

テントウムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から低山地のクワ類が生育する里山周辺

**生息状況** 天草地域を除く県内全域で生息が確認されている。かつては低地の桑畑周辺でよく見られたが、養蚕業の衰退とともに近年個体数が減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、道路工事、農地開発

**特記事項**



標本所有者：濱砂淳人

## ジュウサンホシテントウ

*Hippodamia tredecimpunctata timberlakei* Capra, 1931

テントウムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、特殊生息生育環境

**生息環境** 河口汽水域や池沼、湿地などのヨシ原

**生息状況** 県央地域、県南地域の主に河川下流域で生息が確認されている。本種の生息環境はヨシ原に限定されており、河川改修や護岸工事などによる影響を受けやすい。

**生存への脅威** 池沼の改修、河川改修、水湿地の開発、ヨシ原の減少

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## オオテントウ

*Synonycha grandis* (Thunberg, 1781)

テントウムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から低山地のホウライチク等のタケ類が生育する樹林地

**生息状況** 県内全域での確認記録がある。タケ類につくタケノアブラムシを捕食することが分かっている。

**生存への脅威** 不明

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## オカモトツヤアナハネムシ

*Tosadendroides okamotoi* Kono, 1935

アカハネムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、その他 (希少)

**生息環境** 山地帯の自然度の高い自然林

**生息状況** 県央地域、県南地域の山地帯の自然林で生息が確認されているが、個体数は少ない。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他 (シカ食害による森林の乾燥化)

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## ヒゴケナガクビボソムシ

*Neostereopalpus kyushuensis* Nakane, 1975

アリモドキ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 全国局限、県内局限、模式産地、近年減少

**生息環境** 山地帯の自然林

**生息状況** 県央地域、県南地域の山地帯の自然林で生息が確認されているが、個体数は少ない。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他 (シカ食害による森林の乾燥化)

**特記事項**

## ソボトゲヒサゴゴミムシダマシ

*Misolampidius sobosanus* M.T.Chujo et Imasaka, 1982

ゴミムシダマシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 山地帯の自然林

**生息状況** 県央地域、県南地域の山地帯の自然林で生息が確認されているが、個体数は少ない。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：井手芳郎

## キュウシュウオオクボカミキリ

*Tengius kurosawai* Makihara, 1986

ホソカミキリムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 全国局限、県内局限、模式産地、その他（希少）

**生息環境** 山地帯の自然林

**生息状況** 県央地域、県南地域の山地帯の自然林で生息が確認されているが、個体数は少ない。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：竹下富

## シコクヒメコブハナカミキリ

*Pseudosieversia shikokensis* Hayashi, 1959

カミキリムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 山地帯のカツラの大木が生育する自然林

**生息状況** 県央地域から県南地域にかけての山地帯の自然林で生息が確認されている。本種はカツラの大木に依存しており生息地は局限される。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## フタコブルリハナカミキリ

*Stenocorus caeruleipennis* (Bates, 1873)

カミキリムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 山地帯の自然林

**生息状況** 県北地域から県南地域にかけての山地帯の自然林で生息が確認されているが、個体数は少ない。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## ムナコブハナカミキリ

*Xenophyrama purpureum* Bates, 1884

カミキリムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 全国局限、県内局限、模式産地、近年減少

**生息環境** 山地帯の自然林

**生息状況** 県北地域から県南地域にかけての山地帯の自然林で生息が確認されているが、県北地域にある生息地を除き個体数は少ない。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。県北地域の生息地では今のところ個体数は比較的安定しているが、公園管理に伴う農薬散布による本種への影響が懸念される。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、観光開発、農薬使用、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## キュウシュウヘリグロホソハナカミキリ

*Ohbayashia nigromarginata rufoflava* Hayashi, 1968

カミキリムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 全国局限、県内局限、その他（希少）

**生息環境** 山地帯の自然林

**生息状況** 県央地域、県南地域の山地帯の自然林で生息が確認されているが、生息地は局地的である。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## ヒゲブトハナカミキリ

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

*Pachypidonia bodemeyeri* (Pic, 1934)

カミキリムシ科

**選定理由** 近年減少、その他 (希少)

**生息環境** 山地帯の洞のあるような大径木が生育する自然林

**生息状況** 県北地域から県南地域にかけての山地帯の自然度の高い森林内の樹洞に生息している。採集された個体も少なく、個体数も少ない種である。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他 (シカ食害による森林の乾燥化)

**特記事項**



標本所有者：竹下富

## イガブチヒゲハナカミキリ

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

*Stictoleptura igai* (Tamanuki, 1942)

カミキリムシ科

**選定理由** 近年減少、その他 (希少)

**生息環境** 山地帯の針葉樹が混生する自然林

**生息状況** 県央地域から県南地域にかけての山地帯の自然度の高い森林内に生息しているが、個体数は少ない。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他 (シカ食害による森林の乾燥化)

**特記事項**



標本所有者：竹下富

## オオホソコバナカミキリ

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

*Necydalis solida* Bates, 1884

カミキリムシ科

**選定理由** 全国局限、近年減少、その他 (希少)

**生息環境** 山地帯のブナなどが生育する自然林

**生息状況** 県央地域から県南地域にかけての山地帯の自然林で生息が確認されているが、個体数は少ない。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他 (シカ食害による森林の乾燥化)

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## スネケブカヒロコバナネカミキリ

*Merionoeda hirsute* (Mitono et Nishimura, 1936)

カミキリムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 低山から山地帯のネムノキが生育する樹林地

**生息状況** 県北地域から県南地域にかけての山地帯の樹林地などで生息が確認されているが、個体数は少ない。開発に伴う森林伐採などにより本種の生息地は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## オオアオカミキリ

*Chloridolum thaliodes* Bates, 1884

カミキリムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 山地帯のサワグルミなどが生育する自然林

**生息状況** 県央地域から県南地域にかけての山地帯の自然林で生息が確認されているが、個体数は少ない。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## ヨコヤマトラカミキリ

*Epiclytus yokoyamai* (Kano, 1933)

カミキリムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 山地帯の自然林

**生息状況** 県北地域の山地帯で生息が確認されているが、生息地は局地的である。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：宮崎能



## アカジマトラカミキリ

*Anaglyptus bellus bellus* Matsumura et Matsushita, 1933

カミキリムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 山地帯のケヤキなどが生育する自然林

**生息状況** 県北地域から県南地域にかけての山地帯の自然林で確認されているが、生息地は局地的である。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## シナノクロフカミキリ

*Asaperda agapanthina* Bates, 1873

カミキリムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 山地帯の自然林

**生息状況** 県央地域から県南地域にかけての山地帯の自然林で生息が確認されているが、個体数は少ない。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## キュウシュウシナカミキリ

*Eutetrappa sedecimpunctata australis* Takakuwa et Hirokawa, 1998

カミキリムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 全国局限、県内局限、模式産地、近年減少

**生息環境** 山地帯のシナノキなどが生育する自然林

**生息状況** 県北地域から県南地域にかけての山地帯の自然林で確認されているが、生息地は局地的である。森林伐採による自然林の減少、シカの食害による乾燥化などにより、本種の生息環境は減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## オオシロオビゾウムシ

*Cryptoderma fortunei* (Waterhouse, 1853)

オサゾウムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から低山地の樹林地周辺

**生息状況** 県北地域、県央地域で生息が確認されている。里山周辺に広く生息すると思われるが、確認例は少ない。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成

**特記事項**



標本所有者：堤内雄二

## ホソセスジゲンゴロウ

*Copelatus weymarni* Balfour-Browne, 1946

ゲンゴロウ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない水田、休耕田や廃田、湿地、ため池等

**生息状況** 県北地域、県南地域（人吉・球磨）、天草地域で、生息が確認されている種。*Copelatus* 属では一番個体数が多い種ではあるが、近年は生息環境の減少や悪化により減少傾向にある。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、池沼の改修、水湿地の開発、農地開発

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## ヒメシジミガムシ

*Laccobius fragilis* Nakane, 1966

ガムシ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、県内局限、全国局限

**生息環境** 農薬や家庭排水の影響のない河川

**生息状況** 県内全域で生息が確認されている種である。生息環境の改変などにより、減少していく可能性がある。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、河川改修

**特記事項**



標本所有者：松井英司

## アカシジミ

*Japonica lutea* (Hewitson, 1865)

シジミチョウ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から山地のクヌギなどが生育する広葉樹林

**生息状況** 県内全域に分布している。県央地域・県北地域では開発で、九州中央山地では伐採により急激に減少した。県南地域は個体数が非常に少ない。分布域は広いが、特に主要産地である県北地域での減少が著しい。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、人工造林、道路工事、観光開発

**特記事項** 県南地域での記録は少なく、分布状況が明確ではない。分布と既知産地における個体数変動の調査の継続が必要。



撮影：田原朗敏

## クロツバメシジミ(九州沿岸・朝鮮半島亜種)

*Tongeia fischeri caudalis* Bryk, 1946

シジミチョウ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 県内局限、近年減少、その他(希少)

**生息環境** ツメレンゲなどが生育する日当たりのよい海岸の露岩地や砂浜

**生息状況** 天草地域に分布している。上天草市(旧大矢野町)の記録は1966年頃が最後で、以後の記録がない。生息地の崖がコンクリートで覆われており減少傾向にある。

**生存への脅威** 土地造成、道路工事、海辺の改変等

**特記事項** 食草の植栽、生息地の定期的な調査が必要。



撮影：田原朗敏

## シータテハ

*Polygonia c-album hamigera* (Butler, 1877)

タテハチョウ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 低山地から高標高地のハルニレ、オヒョウの生育する林

**生息状況** 天草地域を除く県内全域に分布している。生息地におけるキャンプ場・ダム・道路建設などに伴う伐採のためにハルニレが減少し、個体数が激減傾向にある。特に九州中央山地、県南地域での食樹であるハルニレ、オヒョウの伐採が目立つ。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、土地造成、道路工事、観光開発、農薬使用、自然災害

**特記事項** ハルニレの保護が必要。



撮影：田原朗敏

## ウラギンスジヒョウモン

*Argyronome laodice japonica* (Ménétriès, 1857)

タテハチョウ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から低山地にかけての樹木がまばらに生え、スミレなどのスミレ科が生育する日当たりのよい乾性草原

**生息状況** 県北地域、県央地域に分布している。1990年頃までは普通に生息していたが、草原の減少、植生遷移の進行、草原の改変、ゴルフ場・ホテル・キャンプ場・道路建設に伴う開発による環境悪化が認められ減少が著しい。

**生存への脅威** 道路工事、観光開発、草地の開発、管理放棄、農薬使用、火山活動、自然遷移

**特記事項** 人為的な採草、火入れなどによる環境維持が必要。



撮影：溝部忠志

## クモガタヒョウモン

*Nephargynnis anadyomene midas* (Butler, 1866)

タテハチョウ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 山地や丘陵地の森林とその周囲のタチツボスミレなどのスミレ科が生育する草地

**生息状況** 県内全域に分布する。分布域は広いが、個体数は少ない。低地では草地の管理放棄や伐採などにより減少している。他の山地性ヒョウモンチョウ類に比べ、発生時期が5月半ばと早い。

**生存への脅威** 森林伐採、道路工事、管理放棄

**特記事項** 生息環境が変化していないかどうかの調査が必要。



撮影：田原朗敏

## ミスジチョウ

*Neptis philyra excellens* Butler, 1878

タテハチョウ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少、希少

**生息環境** 山地のカエデ類などが生育する落葉広葉樹林内の渓谷

**生息状況** 県北地域、九州中央山地、県南地域に分布している。分布域は広いが個体数は少ない。九州中央山地、県北地域では道路建設に伴う伐採のために乾燥し、生息環境が悪化した。また九州中央山地では吸水中、車両に踏み付けられた個体も見られる。

**生存への脅威** 森林伐採、道路工事、通行車両

**特記事項** 九州中央山地での広域林道などの道路建設の縮小が必要。



撮影：八尋勇

## ホシミスジ

*Neptis pryeri setoensis* Fukuda & Minotani,1999

タテハチョウ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 分布境界、近年減少、その他 (希少)

**生息環境** シモツケなどが生育する里山の人家周辺、樹林周辺、山地の崖

**生息状況** 県北地域、県央地域、九州中央山地に分布する。主要産地が県北地域の里山にあり、ゴルフ場・ホテル・キャンプ場・道路建設のため環境が悪化している。また九州中央山地においては生息地の崖がコンクリートの吹きつけによって破壊されている。

**生存への脅威** 土地造成、道路工事、観光開発、その他 (崖のコンクリート化)

**特記事項** 里山の環境維持、山地にある生息地への食草の植栽が必要。分布の南限は球磨郡山江村。



撮影：寺崎昭典

## オオムラサキ

*Sasakia charonda charonda* (Hewitson,1863)

タテハチョウ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 里山や山地の食樹であるエノキが生育する広葉樹林

**生息状況** 天草地域を除く県内全域に分布している。道路工事、ゴルフ場・ホテル建設のための開発により幼虫の食樹であるエノキや成虫の餌の樹液を産するクヌギなどが伐採され、減少傾向にある。特に主要産地である県北地域での開発、里山からの人の撤退により生息環境の悪化が著しく、推移を見守る必要がある。

**生存への脅威** 森林伐採、土地造成、道路工事、観光開発、採集・捕獲

**特記事項** 生息地におけるエノキ、クヌギ林の保護が必要。



撮影：田原朗敏



中段：蛹  
撮影：寺崎昭典



下段：幼虫  
撮影：寺崎昭典

## ウラナミジャノメ

*Ypthima multisriata nipponica* Murayama,1969

タテハチョウ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

**選定理由** 近年減少

**生息環境** イネ科などの食草が生育する樹林周辺の草地や明るい疎林内

**生息状況** 県北地域、県央地域、九州中央山地、天草地域での報告がある。県全域に分布していると思われるが、近年減少が著しく、かつて普通に観察された地域においても生息が確認できない場合も多い。個体数の変動も激しく、生息が脆弱である。天草地域における生息状況は良好である。

**生存への脅威** 土地造成、道路工事、観光開発

**特記事項** 減少の原因に不明な部分が多く、解明が必要。



標本所有者：田原朗敏

## キマダラモドキ

*Kirinia fentoni* (Butler,1877)

タテハチョウ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 県内局限、近年減少、その他 (希少)

**生息環境** 食草であるイネ科などが生育する火山性草原の明るい疎林内や林縁部

**生息状況** 県北地域、県央地域に分布している。阿蘇地方では草原内のクヌギ、カシワの疎林に多く見られる。別荘地やペンション建設などの開発によって環境が悪化し減少している。

**生存への脅威** 土地造成、道路工事、ゴルフ場開発、観光開発、火山活動

**特記事項** 県北地域における生息地の観光開発の抑制が必要。



撮影：寺崎昭典

## ヒメキマダラヒカゲ

*Zophoessa callipteris* (Butler,1877)

タテハチョウ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 分布境界、近年減少

**生息環境** 1000m以上の山地のササ類が生育する薄暗い森林下

**生息状況** 天草地域を除く県内全域に分布している。山地の林道建設などによる生息地の狭小やシカの食害に伴う乾燥により、個体数が減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、道路工事、その他 (シカ食害による乾燥化)

**特記事項** 生息地の環境と個体数の変化の調査が必要。分布の南限は球磨郡あさぎり町 (旧上村)。



撮影：田原朗敏

## ヘリグロチャバネセセリ

*Thymelicus sylvaticus* (Bremer,1861)

セセリチョウ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、分布境界、近年減少

**生息環境** イネ科などの食草が生育する疎林内や周囲の草原

**生息状況** 県北地域、県央地域に分布している。九州中央山地での1例の報告があるが、今後継続的な調査が必要である。キャンプ場・ゴルフ場・道路建設に伴う草原の消失や草原の改変、草原の植生遷移の進行による生息環境の悪化が認められ減少傾向にある。

**生存への脅威** 土地造成、道路工事、草地の開発、観光開発、農業使用、管理放棄、火山活動、自然遷移

**特記事項** 開発及び、野焼きを取り入れた生息地の植生遷移の抑制が必要。分布の南限は阿蘇郡高森町。



標本所有者：古川雅道

## ヤホシホソマダラ

*Balataea octomaculata* (Bremer, 1861)

マダラガ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 近年減少、その他 (希少)

**生息環境** 明るい草地

**生息状況** 県北地域、県央地域、九州中央山地に記録がある。特徴的な蛾で識別は容易であるが、近年では確認記録が少ない。

**生存への脅威** 草地の開発、自然遷移、自然災害

**特記事項**



撮影：古川雅通

## ヒメスズメ

*Deilephila askoldensis* (Oberthür, 1879)

スズメガ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 県内局限、近年減少、その他 (希少)

**生息環境** 火山性草原

**生息状況** 県北地域 (阿蘇地方) の高原草原の一部では普通であったが、近年の草原の減少により、生息環境が悪化している。

**生存への脅威** 草地開発、自然遷移、土地造成

**特記事項**



撮影：古川雅通

## トラサンドクガ

*Kidokuga torasan* (Holland, 1889)

ドクガ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 山地の二次草原

**生息状況** 県北地域 (阿蘇地方) と県央地域で生息が確認されている。生息地は二次草原に限られているため、草原の維持と管理ができず、遷移が進行して生息環境の減少が起こっている。

**生存への脅威** 草地の開発、管理放棄、自然遷移

**特記事項**



撮影：古川雅通

## ヤネホソバ

*Eilema fuscodorsalis* (Matsumura, 1930)

ヒトリガ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から山地の人家や湿地の地衣類・苔類の生えた場所

**生息状況** わら葺き屋根や板塀などに生えた苔に寄生し、過去にはしばしば大量発生をしたとのことである。幼虫は衛生害虫として知られていた。近年は家屋の改修などにより地衣類・苔類の減少に伴い生息も著しく減少している。

**生存への脅威** 自然遷移、農地開発、その他（家屋の改築）

**特記事項**



撮影：古川雅通

## コシロシタバ

*Catocala actaea* (Felder & Rogenhofer, 1874)

ヤガ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から山地の暖温帯落葉林のクヌギの二次林

**生息状況** 県北地域、県央地域で確認されている。食樹のクヌギがシイタケの原木として利用されるため、ある程度のクヌギ林になると伐採されて、生息地が消失する。そのため、個体数も減少している。

**生存への脅威** 森林伐採、人工植林

**特記事項**



撮影：古川雅通

## ナマリキシタバ

*Catocala columbina yoshihikoi* Ishizuka, 2002

ヤガ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、特殊生息生育環境、その他（希少）

**生息環境** 低山地から山地帯の石灰岩地で、シモツケ属が生育する日当りのよい岩礫地

**生息状況** 九州中央山地と県央地域で生息が確認されているが、個体数は少ない。林道建設や石灰岩の斜面崩壊などにより生息環境の減少化が懸念される。

**生存への脅威** 森林伐採、自然災害、道路建設

**特記事項**



撮影：古川雅通



## オニベニシタバ

*Catocala dula* Bremer, 1861

ヤガ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、その他 (希少)

**生息環境** 山地帯のミズナラ、カシワなどが生育する樹林地

**生息状況** 九州中央山地で生息が確認されているが、個体数は少ない。ミズナラ、アラカシ、コナラ等が食樹として記録されているが、生息地は山地に限定される。近年の森林伐採による自然林の減少、シカの食害で林床の乾燥が進み、ミズナラ等の樹木の立ち枯れで生息環境の減少化が懸念される。

**生存への脅威** 森林伐採、その他 (シカの食害による乾燥化)

**特記事項**



撮影：古川雅通

## カギモンハナオイアツバ

*Cidariplura signata* (Butler, 1879)

ヤガ科

熊本県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 近年減少、その他 (希少)

**生息環境** 明るい雑木林の林縁や河川敷などの草地

**生息状況** 県北地域、県央地域、県南地域に記録がある。本来採集例の少ない種であったが、草地の減少に伴い、本種の減少も著しい。

**生存への脅威** 宅地造成、河川改修

**特記事項**



撮影：古川雅通

## 情報不足 (DD)

### ミナミヤンマ

*Chlorogomphus brunneus costalis* Asahina, 1949

ミナミヤンマ科

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、その他 (希少)

**生息環境** 樹林のある河川源流から上流域

**生息状況** 県内では県南地域と天草地域 (目撃) で確認されていた。現在確認されているのは八代市 (日奈久町) の谷沿いの溪谷である。2 例報告されている。飛来したのか、土着化が不明なので情報不足とした。

**生存への脅威** 河川改修、森林伐採、道路工事、自然災害、水質汚濁

**特記事項** 本種はカラスヤンマの亜種 (四国・九州個体群) である。継続した調査が必要である。



撮影：松原茂

## ベッコウトンボ

熊本県カテゴリー

情報不足 (DD)

環境省カテゴリー

絶滅危惧 I A 類 (CR)

*Libellula angelina* Selys, 1883

トンボ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少、その他 (希少)

**生息環境** 海岸近くの平地から丘陵地のガマなどの抽水植物が繁茂する腐栄養型の大きな池沼、未成熟の成虫のために周辺部には樹林・草地が必要

**生息状況** 県内では 20 年程前に上天草市で確認されたのが最後の記録で、飛来した可能性も考えられる。牛深の生息地は遷移が進行し、陸地化されて生息環境は消滅した。県内では絶滅している可能性が高い。

**生存への脅威** 管理放棄、自然遷移、湿地の乾燥化

**特記事項** 福岡の海の中道で造成された池は飛来したベッコウトンボの生息地となっている。天草でも遷移が進行している池等に開放水面が出来れば、飛来する可能性は高いと考えられる。種の保存法 (希少野生動物種)。



撮影：松原茂

## コバネササキリ

熊本県カテゴリー

情報不足 (DD)

環境省カテゴリー

*Conocephalus japonicus* (Redtenbacher, 1891)

キリギリス科

**選定理由** 県内局限、

**生息環境** 山地の水田、湿地等の周辺のイネ科草地

**生息状況** 九州地域では生息地 (福岡・鹿児島) が限定されている種である。県内では県南地域 (水俣市) で記録されている。

**生存への脅威** 草地の開発、管理放棄、自然災害

**特記事項** 現状では情報が少ないので情報不足に変更。

## アシグロツユムシ

熊本県カテゴリー

情報不足 (DD)

環境省カテゴリー

*Phaneroptera nigroantennata* Brunner von Wattenwyl, 1878

ツユムシ科

**選定理由** 分布境界、近年減少

**生息環境** 山地森林

**生息状況** 広葉樹林の林縁や明るい林内の低木や高茎植物上に見られる。県内では広葉樹林の伐採等で生息環境が減少している。産卵は広葉樹の葉の縁にそって葉肉に行われる。シカに直接食べられないが、下層植生が消失するために乾燥化して影響が考えられる。

**生存への脅威** 森林伐採、その他 (シカの食害による乾燥化)

**特記事項**

## タンボオカメコオロギ

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

*Loxoblemmus aomoriensis* Shiraki, 1930

コオロギ科

**選定理由** 県内局限、その他 (希少)

**生息環境** 山地の湿草地

**生息状況** 本来九州では少ない種で、県内では県北地域の阿蘇地方の湿草地で主に確認されている。既存の生息地では安定して見られる。

**生存への脅威** 草地の開発、水湿地の開発、管理放棄

**特記事項**

## オオオカメコオロギ

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

*Loxoblemmus magnatus* Matsuura, 1986

コオロギ科

**選定理由** その他 (希少)

**生息環境** 平地から丘陵地の草地や河川敷

**生息状況** 生息地が局所的で、生息状況は不明な点が多い。

**生存への脅威** 草地の開発、農地の開発、自然災害

**特記事項**

## ハマスズ

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

*Dianemobius csikii* (Bolivar, 1901)

ヒバリモドキ科

**選定理由** 県内局限、特殊生息環境、その他 (希少)

**生息環境** 砂丘植生のある砂浜海岸

**生息状況** 天草地域の天草市五和町で 1999 年に生息が確認された。しかし、その後は未確認である。確認された海岸は砂の流失、海水浴場の開発等で砂浜の植生が消失し、生息環境も悪化した。現在では生息環境が県内にはほとんど見られなくなり、20 年間、未確認である。

**生存への脅威** 海辺の改変等、観光開発、自然災害

**特記事項**

## ムサシセモンササキリモドキ

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

*Nipponomeconema musashiense* Yamasaki, 1983

ササキリモドキ科

**選定理由** 県内局限、分布境界

**生息環境** 高地山地

**生息状況** 現在確認されているのは、九州では大分県（九重）、と九州中央山地（熊本県・宮崎県）である。県内では詳細は不明である。自然度の高い森林が生息地となっている。

**生存への脅威** その他（シカ食害による乾燥化）、森林伐採

**特記事項** 現状では情報が少ないので情報不足に変更。

## クロダケササキリモドキ

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

*Tettigoniopsis kurodakensis* Abe, 1988

ササキリモドキ科

**選定理由** 県内極限、その他（希少）

**生息環境** ブナがみられる落葉広葉樹林帯

**生息状況** 九州中央山地が県内の生息地である。他には九重山系と祖母山系にみられる。最近の県内には生息地がほとんどない。

**生存への脅威** 森林伐採、自然災害、その他（シカの食害による乾燥化）

**特記事項**

## アカエゾゼミ

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

*Tibicen flammatus* (Distant, 1892)

ゼミ科

**選定理由** 県内局限、その他（希少）

**生息環境** ブナがみられる落葉広葉樹林帯

**生息状況** 現在正確な記録はないが、県北地域（阿蘇地方）で生息している可能性が高い。南小国町のブナ・ミズナラ林で2017年に目撃された。

**生存への脅威** 森林伐採、その他（シカによる食害）、自然災害

**特記事項**



撮影：西田圭志

## エゾゼミ

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

*Tibicen japonicus* (Kato, 1925)

セミ科

**選定理由** 県内局限、その他 (希少)

**生息環境** アカマツ、モミなどの針葉樹林帯

**生息状況** 確認記録はないが、県北地域 (阿蘇地方)、九州中央山地などには生息する可能性が高い。

**生存への脅威** 森林伐採、その他 (シカによる食害)、自然災害

**特記事項**



撮影：西田圭志

## カワラハンミョウ

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

*Chaetodera laetescripta* (Motschulsky, 1860)

ハンミョウ科

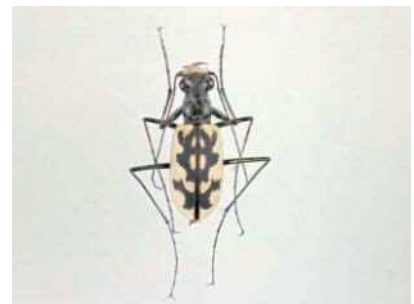
**選定理由** 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境、近年減少

**生息環境** 海岸砂丘や河川河口域の砂浜

**生息状況** 県北地域で生息が確認されているが、生息状況は不明である。

**生存への脅威** 河川改修、海辺の改変等、埋め立て

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## ルイスハンミョウ

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

*Cicindela lewisi* Bates, 1873

ハンミョウ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境、近年減少

**生息環境** 河川河口域の砂泥地

**生息状況** 県北地域と県央地域で生息が確認されているが、生息状況は不明である。

**生存への脅威** 河川改修、埋め立て

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## アマミナカボソタマムシ

*Coraebus amamianus* Y. Kurosawa, 1985

タマムシ科

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 全国局限、県内局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 山地帯の樹林地

**生息状況** 県南地域での記録があるが、生息状況は不明である。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林

**特記事項** 本種は鹿児島県奄美大島と本県及び大分県（九重高原）の一部地域でのみ生息が確認されている。



標本所有者：堤内雄二

## トラフコメツキ

*Selatosomus onerosus* (Lewis, 1894)

コメツキムシ科

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 低山から山地帯にかけての自然林

**生息状況** 天草地域を除く県内全域で生息が確認されているが、確認例は少ない。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## ミドリオオクスイ

*Helota cereopunctata* Lewis, 1881

オオクスイムシ科

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、その他（希少）

**生息環境** 低山から山地帯にかけての自然林

**生息状況** 県北地域、県央地域での確認記録があるが、生息状況は不明である。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林

**特記事項**



標本所有者：堤内雄二

## サツマリンゴカミキリ

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

*Oberea yasuhikoi* Kusakabe, 2001

カミキリムシ科

**選定理由** 県内局限、分布境界

**生息環境** 平地から低山地の植栽を含むサクラ類が生育する樹林地や公園

**生息状況** 天草市有明町で生息が確認されているが、生息状況の詳細は不明である。

**生存への脅威** 森林伐採、道路工事

**特記事項**



標本所有者：宮崎能

## トライクビチョツキリ

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

*Deporaus tigris* Sawada, 1993

オトシブミ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、模式産地、特殊生息生育環境、地域的孤立・希少

**生息環境** 石灰岩地帯の樹林地

**生息状況** 八代市泉町白鳥山と徳島県剣山で生息が確認されている。宿主植物は石灰岩や蛇紋岩地帯に生育するコバノクロウメモドキであることが分かっているが、県内における生息状況は不明である。

**生存への脅威** 森林伐採、人工造林、その他（シカ食害による森林の乾燥化）

**特記事項** 模式産地は八代市泉町白鳥山。

## ケブカアオコハナバチ

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

*Lasioglossum algiruum pseudannulipes* (Blüthgen, 1925)

コハナバチ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 阿蘇の二次草原

**生息状況** 阿蘇の二次草原に生息している。個体数が極端に少なくはないが、阿蘇地方では草原が減少している。全国的には希少種である。

**生存への脅威** 管理放棄、草地の開発

**特記事項**

## コハナバチ属の1種

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

*Lasioglossum* sp.

コハナバチ科

**選定理由** 全国局限、県内局限、地域的孤立・希少

**生息環境** 阿蘇の二次草原

**生息状況** 阿蘇の二次草原に生息している。この属は分類が困難で近縁種と混同される可能性が高い。

**生存への脅威** 管理放棄、草地の開発

**特記事項** R L 2014 ではシャンハイチビコハナバチとなっている。その後の調査で、阿蘇で採集された個体は未記載種(新種)と同一種と推定される。新種として記載が行われる予定である。

## クマモトツチスガリ

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

*Cerceris kumamotonis* Tsuneki, 1978

フシダカバチ科

**選定理由** 県内局限、模式産地

**生息環境** 山地の草原

**生息状況** 八代市泉町の五家荘で発見された種である。最近では九州各県でも確認されている。県内の詳細なデータは少ない状況である。

**生存への脅威** 不明

**特記事項** 模式産地は八代市泉町五家荘。

## ウラクロシジミ

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

*Iratsume orsedice* (Butler, 1882)

シジミチョウ科

**選定理由** 県内局限、分布境界、その他(希少)

**生息環境** 高標高地の湿度の高いマンサク林

**生息状況** 県内の確実な記録は1971年の山都町(旧矢部町)国見岳2合目(標高1200m)での蜘蛛の巣にかかった1♀の記録のみ。他にも山都町椎矢峠付近・八代市泉町八軒谷の目撃記録がある。国見岳の記録は標本も残っており、また本種は偶産になりにくい種なので生息していることは間違いないであろうが、状況は不明である。

**生存への脅威** 森林伐採、道路工事

**特記事項** 国見岳を中心とした調査が必要。



上段 撮影：八尋勇

下段 標本所有者：溝部忠志





## フジキオビ

*Schistomitra funeralis* Butler, 1881

アゲハモドキガ科

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、特殊生息生育環境、その他 (希少)

**生息環境** 山地の自然度の高い樹林

**生息状況** 九州中央山地で生息が確認されているが、個体数は少ない。食樹がナツツバキで高地の自然度の高い樹林で、ナツツバキの分布域に限られている。昼光性の蛾で訪花性がある。オスは湿った地面で吸水も行う。森林伐採、シカの食害による下層植生の消失で、乾燥化して食樹にも大きな影響を与えている。

**生存への脅威** 森林伐採、その他 (シカの食害による乾燥化)

**特記事項**

## クワトゲエダシャク

*Apochima excavata* (Dyar, 1905)

シャクガ科

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から山地にかけての桑畑。

**生息状況** 県南地域に記録がある。食樹はクワで、以前は農業害虫とされていた。しかし、養蚕業の衰退でクワ畑がなくなり、生息環境が消失した。現在の状況は不明である。

**生存への脅威** 農地開発、管理放棄

**特記事項**

## スキバホウジャク

*Hemaris radians* (Walker, 1856)

スズメガ科

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から山間地

**生息状況** 過去には全国各地で、熊本県でも記録されていた。近年では本州～九州の一部地域にしか記録がなく、県内の最近の記録は無い。昼行性のため、もともと採集個体が少ない種である。

**生存への脅威** 土地造成、農地開発

**特記事項**



撮影：古川雅通

## クビグロケンモン

*Acronicta digna* (Butler, 1881)

ヤガ科

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 全国局限、県内局限、近年減少

**生息環境** 平地から山地の湿地

**生息状況** 県北地域（南阿蘇村）での記録がある。しかし、生息地である阿蘇地方の湿地は管理不十分で多くがなくなっている。全国的に減少しているために、多くの県でレッドリストに記載されている。

**生存への脅威** 草地開発、水湿地の開発、自然遷移

**特記事項**



撮影：古川雅通

## ヒゴキリガ

*Orthosia yoshizakii* Sugi & Ohtsuka, 1984

ヤガ科

熊本県カテゴリー  
情報不足 (DD)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県特産、模式産地

**生息環境** 山地の自然度の高い樹林帯

**生息状況** 1984年に新種として記載された。確認地点は九州中央山地の内大臣で、他の地域では確認されていない。山都町内大臣で、1985年、1992年、1993年、2004年に生息が再確認されている。以後も採集された模様であるが、記録がないので詳細は不明である。

**生存への脅威** 森林伐採、道路建設、自然災害

**特記事項** 模式産地は山都町の内大臣。



撮影：古川雅通

## 地域個体群 (LP)

### 八景水谷・江津湖の両湧水池に生息するナベブタムシ

*Aphelocheirus vittatus* Matsumura, 1905

ナベブタムシ科

熊本県カテゴリー  
地域個体群 (LP)  
環境省カテゴリー

**選定理由** 県内局限、全国局限、地理的孤立・希少

**生息環境** 清冽な湧水池の砂礫上

**生息状況** 県内では、八景水谷・江津湖の両湧水池でのみ確認されている個体群であり、両湧水池の環境変化に敏感である。今のところ、個体数は比較的安定しているが、生存への脅威にさらされることも懸念されている。

**生存への脅威** 農薬使用、水質汚濁、河川改修、その他（湧水）

**特記事項**

## 要注目種（AN）

### サラサヤンマ

熊本県カテゴリー  
要注目種（AN）  
環境省カテゴリー

*Sarasaeschna pryeri* (Martin, 1909)

ヤンマ科

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から休耕地の樹林に囲まれた湿地や休耕地

**生息状況** かつて阿蘇地方を除く県内全域で確認されていた。現在では生息地である湿地・休耕地が、管理不足で陸地化している。また、湿地の埋め立てや周辺の樹木伐採で明るくなり、湿地が乾燥している。生息地の環境が悪化し、確認される個体数も減少化傾向が強い。

**生存への脅威** 管理放棄、森林伐採、埋め立て、湿地の乾燥化、自然遷移

**特記事項** 湿地の管理、保全が必要である。



撮影：田原朗敏

### マルタンヤンマ

熊本県カテゴリー  
要注目種（AN）  
環境省カテゴリー

*Anaciaeschna martini* (Selys, 1897)

ヤンマ科

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から丘陵地の樹林に囲まれた放棄水田、抽水植物の多い池沼、湿地

**生息状況** かつて県内全域で確認されていた。現在では各生息地の管理が放棄され、植生の遷移が進行し、開放水面が消失している。場所によっては植物が繁茂し、陸地化しているところも多く見られる。今まで生息が確認されていた放棄水田での減少が著しい。

**生存への脅威** 管理放棄、自然遷移、埋め立て、土砂流入、外来種の侵入

**特記事項** 湿地・池沼の管理、保全が必要である。



撮影：田原朗敏

### トラフトンボ

熊本県カテゴリー  
要注目種（AN）  
環境省カテゴリー

*Epitheca marginata* (Selys, 1883)

エゾトンボ科

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から丘陵地の抽水植物・浮葉植物が多い池沼

**生息状況** かつて阿蘇地方を除く県内全域で確認されていた。しかし、現在では多くの生息地が消失し、個体数は減少化傾向にある。各地の池沼の管理不十分で、植生の遷移が進行し、開放水面がなくなり、腐った植物が堆積している。そのために水深が浅くなり、陸地化が進行している。また、外来種であるオオクチバス等が放された池では本種に影響が出ていると考えられる。

**生存への脅威** 管理放棄、自然遷移、池沼の改修、土砂流入

**特記事項** 池沼の管理・保全が必要である。



撮影：松原茂

## ウラギンヒョウモン

熊本県カテゴリー  
要注目種 (AN)  
環境省カテゴリー

*Fabriciana adippe pallescens* (Butler,1873)

タテハチョウ科

**選定理由** 近年減少

**生息環境** 平地から山地のスミレ類が生育する草原

**生息状況** 本種はDNA分析の知見や発香鱗や交尾器の形状で3種の混在であることが分かっている。熊本県では2種が生息しているが、状況が不十分であるため要注目種とした。阿蘇地方では、10年前と比較したら減少している。平地では極めて少ない。

**生存への脅威** 農地開発、観光開発

**特記事項** 2種の識別と生息地の異なりを調査する必要がある。



撮影：寺崎昭典

## ギンイチモンジセセリ

熊本県カテゴリー  
要注目種 (AN)  
環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

*Leptalina unicolor* (Bremer & Grey,1852)

セセリチョウ科

**選定理由** 県内局限、近年減少

**生息環境** 食草であるイネ科が生育し、植生遷移の進行によってある程度草丈のある乾性草原や人為的に草地在維持された田の畦

**生息状況** 県北地域、県央地域、県南地域に分布している。県北地域ではキャンプ場・ゴルフ場・道路建設に伴う草原の消失や改変、植生遷移の進行による生息環境の悪化により減少している。県南地域では、もともと個体数が少なかったが、現在では生息地、個体数が激減している。

**生存への脅威** 土地造成、道路工事、草地の開発、観光開発、管理放棄、火山活動、自然遷移

**特記事項** 野焼きを取り入れた生息地の植生遷移の抑制が必要。



撮影：寺崎昭典

### (3) 文献

#### 全体

1. 五家荘の会「泉村の自然」編集委員会 (1993) 泉村の自然資料編. 泉村.
2. 平嶋義宏 監修 (1989) 日本産昆虫総目録. 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター.
3. 環境庁自然保護局 (1995) 日本野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ. 自然環境研究センター.
4. 熊本県希少野生動植物検討委員会 (2009) 改定・熊本県の保護上重要な野生動植物ーレッドデータブックくまもと 2009ー. 熊本県環境生活部自然保護課.
5. 熊本県希少野生動植物検討委員会 (2014) 熊本県の保護上重要な野生動植物ーレッドリストくまもと 2014ー. 熊本県環境生活部自然保護課.
6. 熊本昆虫同好会 (1955~2017) 熊本昆虫同好会報.
7. 九州大学農学研究院昆虫学教室 昆虫学データベース 日本産昆虫学名和名辞書 (DJI), <http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/dji/index-j.html> (2019年12月9日)

#### トンボ類

1. 浜田康・井上清 (1985) 日本産トンボ大図鑑. 講談社.
2. 石田昇三 他 (1988) 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説. 東海大学出版会.
3. 九州虫の会. (1981~1999) 九州虫の会誌第3号~第17号.
4. 尾園暁・川島逸郎・二橋亮 (2012) 日本のトンボ. 文一総合出版.
5. 杉村光俊 他 (1999) 原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑. 北海道大学図書刊行会.

#### バッタ類

1. 日本直翅類学会編 (2006) バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 北海道大学出版会.
2. 日本直翅類学会編 (2011) バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑. 北海道大学出版会.

#### カメムシ目

1. 石川忠・高井幹夫・安永智英 (2012) 日本原色カメムシ図鑑第3巻. 全国農村教育協会
2. 槐真史編 (2013a) 日本の昆虫①. 文一総合出版.
3. 槐真史編 (2013b) 日本の昆虫②. 文一総合出版.
4. 熊本県 (2001) 希少野生動植物保護対策事業報告書.
5. 友国雅章 監修 (1993) 日本原色カメムシ図鑑. 全国農村教育協会.
6. 安永智秀・高井幹夫・川澤哲夫 編 (2001) 日本原色カメムシ図鑑第2巻. 全国農村教育協会

#### 甲虫類

1. 秋田勝己・益本仁雄 (2016) 日本産ゴミムシダマシ大図鑑. 月刊むし.
2. 林匡夫 他 (1999) 原色日本甲虫図鑑 (IV). 保育社.
3. 林延夫・新里達也 (2007) 日本産カミキリムシ. 東海大学出版会.
4. 井村有希・水沢清行 (2013) 日本産オサムシ図説. 昆虫文献六本脚.
5. 川井信矢 他 (2005) 日本産コガネムシ上科図説 (第1巻). 昆虫文献六本脚.
6. 国土交通省水管理・国土保全局「河川水辺の国勢調査生物リスト 2019版」
7. 黒沢良彦 他 (1992) 原色日本甲虫図鑑 (III). 保育社.
8. 日本鞘翅目学会 (1984) 日本産カミキリ大図鑑. 講談社.
9. 日本鞘翅目学会 (1986) 日本鞘翅目学会特別報告. さやばね第11号.
10. 大桃定洋・福富宏和 (2013) 日本産タマムシ大図鑑. 月刊むし.
11. 酒井香・藤岡昌介 (2007) 日本産コガネムシ上科図説 (第2巻) 昆虫文献六本脚.
12. 上野俊一 他 (1999) 原色日本甲虫図鑑 (II). 保育社.

#### 水生甲虫類

1. Gentili, E. (1979) Aggiunte alla revisione dei *Laccobius* paleartici (Col. Hydrophilidae). Est. Boll. Soc. Ent. Ita. 3(13): 43-50. figs. 1-2.

2. 神谷一男 (1939) 日本産ゲンゴロウ科の1新種. 日本の甲蟲, 3(1): 32-33.
3. 北野忠・苅部治紀 (2012) 滋賀県でニセコクロヒラタガムシを採集. 月刊むし, (496): 446.
4. Matsui, E. (1986) Notes on some new Hydrophilidea from Japan (Coleoptera). Special Bull. Jap. Soc. Col. 2: 81-90.
5. 松井英司 (1989a) 熊本県本渡市の注目すべきゲンゴロウ科. 熊本昆虫同好会報, 34(3): 28.
6. 松井英司 (1989b) ケシヒラタガムシ甌島列島に産する. 甲虫ニュース, 87, 88: 13.
7. 松井英司 (1991) ニセコクロヒラタガムシ熊本県牛深市に分布する. 昆虫と自然, 26(14): 6-7.
8. 松井英司 (1996) 四国で採集した水生甲虫類(1). 北九州の昆虫, 43(1): 33-40.
9. Matsui E. (1994) Three new species of the genus *Enochrus* from Japan and Taiwan (Coleoptera, Hydrophilidae) Trans. Shikoku Ent. Soc., 20(3-4): 215-220.
10. Miller, K. B., J. Bergsten, & M. F. Whiting (2009) Phylogeny and classification of the tribe Hydatitini (Coleoptera: Dytiscidae): partition choice for Bayesian analysis with multiple nuclear and mitochondrial protein-coding genes. Zoologica Scripta, 38: 591-615.
11. 森正人 (2017) 兵庫県の水生ガムシ類. きべりはむし, 39: 42-52.
12. 中根猛彦 (1987) 日本の甲虫(80). 昆虫と自然, 22(11): 26-30.
13. 中島淳・松井英司 (2018) 鹿児島県と熊本県におけるニセコクロヒラタガムシの採集記録. SAYABANE n. s. (29): 51-52.
14. 岡田亮平 (2015) 北海道におけるニセコクロヒラタガムシの採集記録. さやばねニューシリーズ, (20): 47.
15. 大塚勲 (1995) 蘇陽町の昆虫類. 熊本昆虫同好会報, 40(2): 28-207.
16. Sharp, D. (1884) The Water-Beetles of Japan, Trans. Ent. Soc. London, : 439-464.
17. 渡部晃平・北野忠・佐野真吾・苅部治紀・秋田勝己 (2017) 三重県におけるニセコクロヒラタガムシの初記録. さやばねニューシリーズ, (27): 32.

#### ハチ類

1. 郷原匡史・杉本雄樹・杉浦直人 (2004) 日本産コハナバチ属 12 種の分布に関する新知見 (ハチ目: コハナバチ科). つねきばち 3:51-58. 日本蜂類同好会.
2. 三田井克志 (2005) ツチスガリ属 2 種の九州における新産地記録. つねきばち 6: 54-44. 日本蜂類同好会.
3. 長瀬博彦 (1981) 鹿児島県の蜂. SATSUMA. 30: 253-287. 鹿児島昆虫同好会.
4. 四国昆虫会 (1994) 四国昆虫学会会報. 四国昆虫会.
5. 田塾正・黒川秀吉・野坂千津子 (1982) 五木五家荘にツチスガリを追って. 蜂友通信 第 14 号 日本蜂類同好会.
6. 寺山守 (2004) 日本産有剣膜翅類目録. 日本蟻類研究会紀要 2:1-123.
7. 寺山守・田塾正 (2005) 日本産有剣膜翅類検索表 3. フシダカバチ科 (Philanthidae) ツチスガリ属 (*Cerceris*). つねきばち. 5:1-16. 日本蜂類同好会.

#### 蝶類

1. チョウ類保全協会 (JBCS) (2006~2010) チョウ類保全 News.
2. チョウ類保全協会 (JBCS) (2011~2017) チョウの舞う自然.
3. 日本チョウ類保全ネットワーク (JBCN) (2004~2005) チョウ類保全ネットワーク.
4. 白水隆 (2006) 日本産蝶類標準図鑑. 学習研究社.

#### 蛾類

1. 広渡俊哉 他 (2013) 日本産蛾類標準図鑑Ⅲ. 学習研究社.
2. 井上寛 (1982) 日本産蛾類大図鑑. 講談社.
3. 岸田泰測 他 (2011a) 日本産蛾類標準図鑑Ⅰ. 学習研究社.
4. 岸田泰測 他 (2011b) 日本産蛾類標準図鑑Ⅱ. 学習研究社.

5. 那須義次 他 (2013) 日本産蛾類標準図鑑IV. 学習研究社.
6. 宮田彬 (1983) 蛾類生態便覧 (上下). 昭和堂印刷出版事業部.
7. 杉繁郎 (編) (1987) 日本産蛾類生態図鑑. 講談社.
8. 杉繁郎 (2000) 日本産蛾類大図鑑以後の追加種と学名の変更. 日本蛾類学会.